



鳥取大学 環境報告書 2006

Tottori University Environmental Report 2006



鳥取大学環境憲章

環境基本理念

今日、地球環境問題の量的ならびに地理的な広がりと質的な深刻さが指摘され、環境との調和および環境負荷の低減は、世界的に喫緊の課題となっています。あらゆる人々が、環境に配慮した行動をすることが求められています。

わたしたちは豊かな自然環境に恵まれた鳥取の地の特性をいかし、自然環境を尊ぶ精神を育む教育と研究をめざしています。本学はこれまで、人々が自然生態系を守りつつ生活できるような仕組みの構築のために、中山間地の多い地元にとけ込み、地域と連携した活動を積極的に展開してきました。また乾燥地をはじめとする発展途上国に対する農業その他の技術協力を精力的に進め、地球環境問題の解決に貢献してきました。鳥取大学のわたしたちは長年にわたるこのような活動の実績を誇りとして、「知と実践の融合」を謳う本学の理念のもとに、これを受け継ぎさらに発展させ、世界の環境問題の解決に貢献していくことを決意しました。

環境基本方針

1. 人間性あふれる教育と研究を通して、高い職業倫理と生命の尊厳を重んじる心を持った人間を養成し、地域から地球規模まで、環境問題の解決に貢献します。
2. 全構成員が自然豊かなキャンパスの環境を守り、地域社会の環境保全に貢献します。
3. 全構成員が実践を通して、人と生態系の健全なあり方を追求します。
4. 環境関連の法令を遵守するとともに、省資源、省エネルギー、廃棄物と化学物質との適正管理、ならびに汚染防止などを積極的に進め、環境の保全に努めます。

2006年7月25日制定



学長
能勢 隆之

現代における人類の活動は大量のエネルギー消費、廃棄物の排出等、環境に大きな負荷を与え続けており、その解決は世界的な緊急課題のひとつとなっています。鳥取大学では環境憲章を策定し、それに基づいた種々の取組に挑戦しています。環境憲章では、本学の特徴を活かしながら地域と世界の環境問題の解決に貢献することを理念とし、教育と研究を通して地域から地球規模までの環境問題の解決に貢献すること、キャンパスの環境を守り地域社会の環境保全に貢献すること、人類と生態系の健全なあり方を追求すること、法令遵守と省資源・省エネルギーなど環境保全に努めることを4つの基本方針としています。本報告書では2006年度の取組を報告しています。

特記事項をいくつかあげますと、2006年は国連により「砂漠と砂漠化に関する国際年」に定められました。これを記念して、本学において「乾燥地科学と砂漠化に関する国際会議」を開催するとともに、国立科学博物館（東京）にて展示催しを行いました。また「地域交流プログラム2006 in 鳥取『環境保全』 - ず~っと住みたい地球のために」を開催するなど、地球環境と地域環境を護る取組を行いました。

キャンパスにおいては、環境マネジメント専門委員会を設置し、環境マネジメントシステムの構築を目指した活動、環境手帳の配布などキャンパスの環境保全を進めました。附属学校や学生サークルによる環境への取組も増えてきています。

また、環境配慮に関する4つの目標・計画を制定していますが、そのうちの3つに関しては、年度目標である、エネルギー消費原単位の前年度比1%削減、環境マネジメントシステム構築に向けた全学的組織体制づくり、化学物質の把握に向けた担当部署の一元化を達成することができましたが、廃棄物の削減に向けた廃棄物集計方法の全学統一化については、現実的問題からやや不十分な達成となりました。

環境報告書の発行も2年目を迎えました。2006年度の成果と反省を踏まえ、次年度も本学における環境保全活動を一層推進していきたいと考えています。

能勢 隆之

環境方針	1	・ 報告対象地区
トップメッセージ	2	鳥取地区：三浦・浜坂・白浜（一）・白浜（二）・ 大山（榊水）・溝口（伯耆）・蒜山・ 大塚・三朝・大寺屋・湖山（附幼）・ 湖山（附養）団地
目次	3	米子地区：米子・西町団地 庖丁人町・中町・湖山北・皆生団地は職員宿舎の みのため、対象地区より除外しています。
環境Topics2006	4	・ 報告対象分野
大学概要	5	環境的側面・社会的側面
マテリアルバランス	8	・ 準拠した環境省のガイドライン
環境マネジメントシステム	9	環境報告書ガイドライン （2003年度版）
環境配慮の目標・計画	12	環境報告書の記載事項等の手引き （2005年12月）
研究	13	環境会計ガイドライン （2005年度版）
教育	19	事業者の環境パフォーマンス指標ガイドライン （2002年度版）
社会貢献活動	25	環境報告書の信頼性を高めるための自己評価の手引き （試行版）
環境コミュニケーション	31	・ 鳥取大学概要
医学部附属病院の取組	32	編集：鳥取大学 総務部 総務課
附属学校の取組	34	TEL：0857-31-5750
鳥取大学風紋祭の取組	37	FAX：0857-31-5797
学生サークルの取組	38	
構内事業者の取組	39	
社会的取組	41	
環境負荷の低減	45	
規制の遵守状況	53	
環境会計	54	
環境報告書の情報開示	55	
環境マップ	56	
自己評価・編集後記	58	
用語集	59	



表紙の写真は、緑豊かな三浦団地の写真です。1966年より新キャンパスに移転を開始してから40年が経過し、当時小さかった樹木も緑豊かなキャンパスを形成しています。
本報告書内において『キャンパスの樹木について』と題して、キャンパス内の樹木の由来等について掲載しています。
（三浦団地P20・26・28・31・40・42・48・54（樹木の位置については環境マップP56参照））
（米子団地P28・40（樹木の位置については環境マップP57参照））

背表紙の写真は、米子団地を中海越しに見ています。左手後方に見える山は、名峰大山です。

砂漠と砂漠化に関する国際年

国連砂漠化対処条約発効10周年を迎えた2006年は、国連により「砂漠と砂漠化に関する国際年（IYDD）」と定められました。

鳥取大学では、これを記念して、国連砂漠化対処条約事務局及び国連大学等との共催で「乾燥地科学と砂漠化対処に関する国際会議」を開催しました。

シンポジウム

乾燥地に対する市民の理解を深め、国際貢献のあり方を考えること及び鳥取大学乾燥地研究センターの研究活動を世界に向けて発信することを目的としました。

講演：恒川篤史（鳥取大学乾燥地研究センター長）

「世界の砂漠は、今 - 砂漠化の現状と対策 - 」

ムサ・モハメッド・オマル・サイド（前駐日スーダン共和国特命全権大使）

「干ばつ、砂漠化と住民」

幸田チャーミン（国際連合広報センター所長）

「モンゴルと中国の砂漠化を取材して」

パネル・ディスカッション：「国際貢献に向けた市民の役割」

パネリスト：片山善博（鳥取県知事）、幸田チャーミン（国際連合広報センター所長）、

石田敏光（日本沙漠緑化実践協会理事）、岩崎薫（JICA中国次長）、

須田郁美（鳥取大学学生）

モデレーター：稲永忍（国際農林水産業研究センター理事長）

研究集会

鳥取大学における乾燥地研究の成果発表と研究交流、乾燥地分野における国際的研究ネットワークの構築及び産官学連携の推進を目的としました。

環境技術等展示・写真展

鳥取大学及び乾燥地研究センターの紹介を行いました。

また、国連大学において鳥取大学他の主催による国際シンポジウム「砂漠とともに生きる - 乾燥地科学と現場での取り組み」も開催しました。

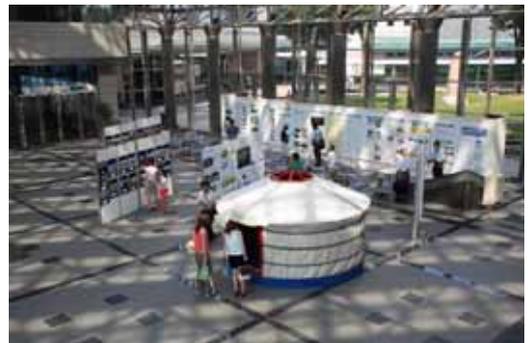
本報告書内において『きみもなろう「砂漠博士」』と題して、砂漠及び乾燥地研究センターの紹介を掲載しています。（P20・26・42・48・54）



パンフレット



シンポジウム



展示・写真展

地域交流プログラム2006in鳥取

独立行政法人日本学生支援機構中国支部の主催により「地域交流プログラム2006in鳥取『環境保全』 - ず～っと住みたい地球のために」が開催されました。

中国5県に在籍する外国人留学生と日本人学生が鳥取県に集い、大学、地域、国を超えた交流を図るとともに、地球温暖化などの環境問題をテーマに学び、話し合い、関連施設の見学を通して、各人が地球にやさしい行動とは何かを考えるプログラムでした。

鳥取大学乾燥地研究センターの施設見学

乾燥地の環境（気温・湿度）を再現している「アリドドーム」、世界の乾燥地を再現したジオラマ模型、乾燥地分布を表したパネル、世界各地の砂標本等が置いている「学術標本展示室（ミニ砂漠博物館）」の施設見学を行いました。



職員・学生数

区 分	2002	2003	2004	2005	2006
職員数	1,598	1,611	1,596	1,590	1,625
学生数(学部)					
地域学部	-	-	204	406	617
教育地域科学部	710	711	542	379	204
教育学部	43	14	4	-	-
医学部	1,042	1,173	1,182	1,173	1,186
工学部	2,198	2,143	2,125	2,119	2,115
農学部	1,118	1,111	1,102	1,110	1,126
小 計	5,111	5,152	5,159	5,187	5,248
学生数(大学院)					
教育学研究科	91	102	93	82	69
医学系研究科	230	257	313	319	314
工学研究科	424	426	404	400	428
農学研究科	151	145	147	152	127
連合農学研究科	162	165	156	156	147
小 計	1,058	1,095	1,113	1,109	1,085
附属小学校	457	458	457	456	451
附属中学校	472	471	468	471	471
附属養護学校	59	59	56	60	59
附属幼稚園	134	121	140	132	114
合 計	8,889	8,965	8,989	9,005	9,053

土地・建物

団 地	学部等名	土地 (㎡)	建物 延面積 (㎡)	所 在 地
三浦	地域・工・農・図書館・事務局等	508,118	119,424	鳥取市湖山町南4丁目101番地
白浜(一)	学生寄宿舍	19,837	7,086	鳥取市湖山町西1丁目357番地
大寺屋	艇庫	226	142	鳥取市湖山町南5丁目595番地
湖山(附幼)	附属幼稚園	4,297	1,073	鳥取市湖山町北2丁目465番地
米子	医・附属病院・生命機能研究支援センター等	134,144	139,209	米子市西町86番地、36番地の1
内町	学生寄宿舍	5,968	3,124	米子市内町161番地
白浜(二)	国際交流会館・フィールドサイエンスセンター	46,693	4,072	鳥取市湖山町西4丁目110番地
浜坂	乾燥地研究センター	978,344	8,940	鳥取市浜坂1390番地
溝口	フィールドサイエンスセンター	332,882	0	日野郡伯耆町金屋谷
蒜山	フィールドサイエンスセンター・短期学生宿舎	5,732,636	1,318	岡山県真庭市蒜山上徳山
大山(榎水)	中国・四国地区国立大学共同研修所	7,326	1,519	日野郡伯耆町金屋谷字榎水高原793番地44
西町	艇庫	-	251	米子市西町133番地の1
湖山(附養)	附属養護学校	18,587	3,487	鳥取市湖山町西2丁目149番地
大塚	フィールドサイエンスセンター	56,083	413	鳥取市大塚
三朝	フィールドサイエンスセンター	1,865,902	0	東伯郡三朝町大谷
合 計		9,711,043	290,058	

外部資金受入状況

区 分	科学研究費補助金	共同研究	奨学寄附金	受託研究	地域貢献受託事業
件数	234	160	659	98	15
金額(千円)	537,167	201,880	490,188	398,270	13,226

2006年度地域別大学入学状況

区 分	中国地方	近畿地方	九州・沖縄	中部地方	四国地方	関東地方	東北	北海道	その他 (外国・大検等)
人数	536	353	114	103	54	34	10	3	9
割合(%)	44.1	29.0	9.4	8.5	4.4	2.8	0.8	0.3	0.7

2006年度卒業(修了)者就職状況

区 分	卒業(修了)者数	就職希望者数	就職者数	就職率(%)	進学者数	その他
学部	988	575	549	95.5	353	60
大学院	357	279	273	97.8	21	57
合計	1,345	854	822	96.3	374	117

学部

地域に学び、地域に還元する、21世紀の「地域」をになうキーパーソンを養成する 地域学部

「地域」とは、人々が生活している空間の広がり、その広がりの中で展開されている社会関係を意味します。ですから、内容も規模も様々な地域が存在し、その全体が世界を形成していることとなります。今日、私たちが生きていくうえで解決を迫られている問題の多くは、この地域をベースとして考えられるべきです。

地域学部では、地域の公共課題を環境、文化、教育および政策の四つの視点から教育・研究し、真の意味での人間的な豊かさを探究していくとともに、地域の維持可能な発展を担うキーパーソンを養成します。

学科	地域政策学科	地域教育学科	地域文化学科	地域環境学科
講座	地域自治論 公共政策学	発達科学 学習科学	地域文化形成論 地域文化構造論	共生型環境学 循環型環境学



生命の尊厳を重んじ、創造性豊かな医療人と生命科学者を養成する 医学部

鳥取大学医学部は、少子高齢化が全国でも比較的早く進行している山陰地区に位置しています。その地域特性を生かし、21世紀にふさわしい保健、医療、福祉及び生命科学の理論を教授し、これを実践できる技能を身につけさせます。そして、この教育の実践のなかで、生命の尊厳を重んじ、限りない人間愛を身につけるとともに、地域社会のみならず、国際的に貢献できる個性輝く創造性豊かな人材の養成を目指しています。



学科	医学科			生命科学科	保健学科		
講座	機能形態統御学 感覚運動医学 器官制御外科学	社会医学 基盤病態医学	統合内科医学 病態解析医学	分子細胞生物学 生感情報機能学	看護学専攻 検査技術科学専攻	基礎看護学 成人・老人看護学 生体制御学	母性・小児家族看護学 地域・精神看護学 病態検査学

社会と人間をつなぐ『技術』で新時代をクリエイト 豊かな自然と教育環境が育む世界を拓くエンジニア 次代に柔軟に対応できる『技術』と『感性』をもった人材の育成 工学部

科学技術の先端化に伴い、高度な知識と鋭い感性を持った技術者・研究者が求められています。そこで鳥取大学では『知と実践の融合』を理念に掲げ、幅広い教養の上に深い専門知識を持ち、問題発見・解決能力と実践力を兼ね備えた人材を養成することを目指しています。工学部は8学科体制の教育研究組織で、ものづくりから環境科学やソフトウェアまで非常に幅広い分野をカバーしていますので、志願者は必ず望みの分野を発見できます。

大学評価・学位授与機構から高い評価を受けた工学教育システムで、入学生に高付加価値をつけて実社会に送り出しています。また新時代の要請に応えた最先端の研究成果を通して、人類の平和と福祉の向上に貢献しています。

学科	機械工学科	知能情報工学科	電気電子工学科	物質工学科	生物応用工学科	土木工学科	社会開発システム工学科	応用数理工学科
講座	材料工学 設計生産工学 エネルギー工学	知能制御工学 計算機工学 知識工学	電子情報制御 電気電子システム 電子物性デバイス	精密合成化学 機能材料化学	生物機能基礎学 生物反応工学	建設工学 海洋建設工学	応用システム工学 社会開発工学	数理力学 数理応用



豊かな人間性と英知をもって環境・食糧問題を科学する 農学部

鳥取大学農学部は、その前身を大正9年に鳥取高等農業学校として地域社会に貢献することを目的に創設以来、今日まで80余年の歴史を刻んできました。この間、学科の新設、統合、再編整備を経て地元はもとより、広く世界に貢献する農学部が発展し、多くの研究成果とともに有能な人材を輩出してきました。

本学部は4年制の生物資源環境学科と6年制の獣医学科の2学科で構成しています。生物資源環境学科は理論とともにフィールド重視の実践教育を通じて豊かな人間性と幅広い視野を持つ創造性ある人材の育成に努めています。獣医学科は、基礎から応用、臨床まで獣医師に求められる高い専門性とともに動物と人間の福祉に貢献できる人材の育成を目指しています。

本学部での実践的教育研究を推進するため附属研究施設としてフィールドサイエンスセンター、菌類きのこ遺伝資源研究センター、動物病院及び鳥由来人獣共通感染症疫学研究センターを有しており、さらに全国共同利用施設の鳥取大学乾燥地研究センターとも深く関わっています。



学科	生物資源環境学科	獣医学科
講座	生物資源科学 国際環境科学	基礎獣医学 病態・予防獣医学 臨床獣医学

大学院

教育学研究科

教育学研究科は、教育地域科学部における教育や教育現場における実践経験の基盤に立ち、教育にかかわる広い分野の学問・芸術の研究能力を養うとともに、山陰地方及び環日本海文化圏の地域特性に深い造詣を有し、教育の国際化・情報化及び生涯教育・環境教育・福祉教育に広い視野を持ち、教育実践上の諸問題に対応できる識見と高度の専門的能力を備えた人材を養成することを目的としています。

専攻	学校教育専攻	障害児教育専攻	教科教育専攻
課程区分	修士課程		

医学系研究科

生命の尊厳を尊重し、生命倫理を遵守し、地域特性を活かした最先端の医学研究及びヒトゲノムに関する生命科学研究と再生医療や遺伝子医療に関する研究を進展させます。

この研究成果は、科学と地域社会の発展に寄与するとともに、国際的に高く評価され、かつ、人類の発展と平和に貢献する人材の育成を目標としています。

専攻	医学専攻	生命科学専攻	機能再生医学専攻	寄附講座:ゲノム医学講座 (キリンビール)	保健学専攻
課程区分	博士課程	博士課程(前期、後期課程)			修士課程

工学研究科

21世紀の我が国と世界の科学技術をリードしていく技術者・研究者の養成を行うため、豊かな学識と高度な専門技術を習得できる大学院工学研究科が設置され、最高学府にふさわしい教育研究体制を確立しています。

大学院工学研究科には、修業年限2年の博士前期課程と、それに引き続く修業年限3年の博士後期課程が設置されています。入学制度や履修形態の弾力化をはかり、社会人や留学生の積極的な受け入れを行っています。

専攻	機械工学専攻	知能情報工学専攻	電気電子工学専攻	物質工学専攻	生物応用工学専攻	土木工学専攻	社会開発システム工学専攻	応用数理工学専攻
課程区分	博士課程(前期2年の課程)							
専攻	情報生産工学専攻 講座:生産システム工学、知能情報工学、電子情報システム工学、生産環境システム							
	物質生産工学専攻 講座:分子工学、生物工学							
	社会開発工学専攻 講座:社会基盤工学、社会システム工学							
課程区分	博士課程(後期3年の課程)							

農学研究科

グローバル化の時代にふさわしい国際人として持続性ある生物生産と生存環境の構築に貢献する高度専門職業人の育成を目指しています。本研究科は生物生産科学、農林環境科学及び農業経営情報科学の3専攻で構成しています。特に鳥取大学乾燥地研究センター、及び日本で唯一のきのこに関する研究機関である(財)菌じん研究所と連携して乾燥地農学、菌じん学などの特色ある教育研究の充実を図っています。

専攻	生物生産科学専攻	農林環境科学専攻	農業経営情報科学専攻
課程区分	修士課程		

連合農学研究科

本研究科は、平成元年に、後期3年のみの博士課程の独立研究科として、鳥取大学、島根大学及び山口大学の各大学院農学研究科(修士課程)の教員組織、研究設備及び施設を連合して設立しました。設置の目的は、中国地方の三大学が連合して、一大学のみでは成し得ない広範かつ専門性の高い教育研究分野を組織し、水準の高い農学系の大学院博士課程の教育研究体制を作り、生物生産科学、生物環境科学及び生物資源科学に関する研究を推進させ、高度の専門的能力と豊かな学識を備えた研究者・技術者を養成し、我が国の学術研究の進歩と生物関連諸産業の発展に寄与しようとするものです。

専攻	生物生産科学専攻 講座:農業生産学、森林資源学、経済・経営学
	生物環境科学専攻 講座:生産環境工学、環境科学、国際乾燥地農学
	生物資源科学専攻 講座:資源生物学、資源利用化学
課程区分	博士課程(後期3年の課程)

連合獣医学研究科(山口大学大学院)

本研究科は、鳥取大学農学部、宮崎大学農学部、鹿児島大学農学部及び山口大学農学部の各獣医学科並びに附属家畜病院の教員組織と研究設備及び施設を連合して標準修業年限4年の大学院博士課程で、平成2年に山口大学に設置されました。

本研究科は、獣医学に関する高度の専門的能力と豊かな学識を備え、かつ、柔軟な思考力と広い視野を持って、社会の多様な方面で活躍できる高級技術者及び独創的な研究をなし得る研究者を養成し、学術の進歩並びに社会の発展に寄与しようとするものです。

専攻	獣医学専攻 講座:基礎獣医学、病態・予防獣医学、臨床獣医学
課程区分	博士課程

INPUT

OUTPUT

総エネルギー使用量

● 購入電力	: 38,274,438 Kwh
● 自家発電機	: 200,400 Kwh
● 太陽光	: 1,663 Kwh
● 都市ガス	: 627,172 m ³
● LPG	: 16,266 kg
● 灯油	: 9,384 L
● 重油	: 1,760,804 L
● ガソリン	: 16,476 L
● 軽油	: 10,151 L

環境負荷の低減

➤ P45

総物質使用量

● 紙	: 105,606 kg
-----	--------------

環境負荷の低減

➤ P47

● グリーン調達 ^{*2}	: 108 品目
------------------------	----------

環境負荷の低減

➤ P52

水資源使用量

● 上水	: 313,739 m ³
● 工業用水	: 63,810 m ³

環境負荷の低減

➤ P47

事業活動



研究

● 環境に関する研究

研究

➤ P13 ~ 18



教育

● 環境に関する教育

● 附属学校の取組

教育

➤ P19 ~ 24、34 ~ 36



診療

● 高度な医療

● 医療人の教育・養成

● 地域貢献

医学部附属病院の取組

➤ P32・33



社会貢献

● 環境保全活動

● ボランティア

● 地域貢献

● 自然修復

● 生物多様性の保全

社会貢献活動

➤ P25 ~ 30

温室効果ガス排出量

● CO ₂	: 29,252 t-CO ₂
-------------------	----------------------------

環境負荷の低減

➤ P47

廃棄物等排出量

● 一般廃棄物	: 871 t
● 産業廃棄物	: 1,190 t
● うち特別管理産業廃棄物	: 251 t

環境負荷の低減

➤ P50

総排水量

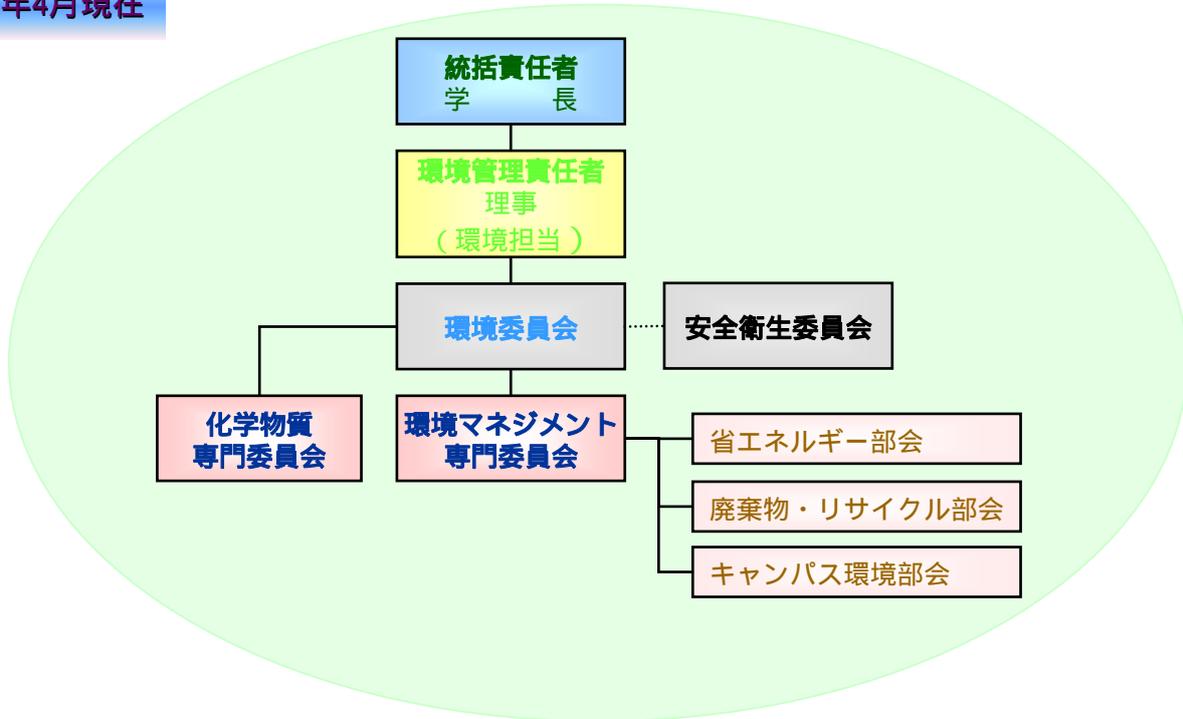
● 公共用水域 ^{*3}	: 155,989 m ³
● 下水道	: 221,560 m ³
● BOD(平均値)	
鳥取地区	: 8.2mg/L
米子地区(医学部)	: 12.8mg/L
(附属病院)	: 62.9mg/L
● COD(平均値)	
鳥取地区	: 12.4mg/L

環境負荷の低減

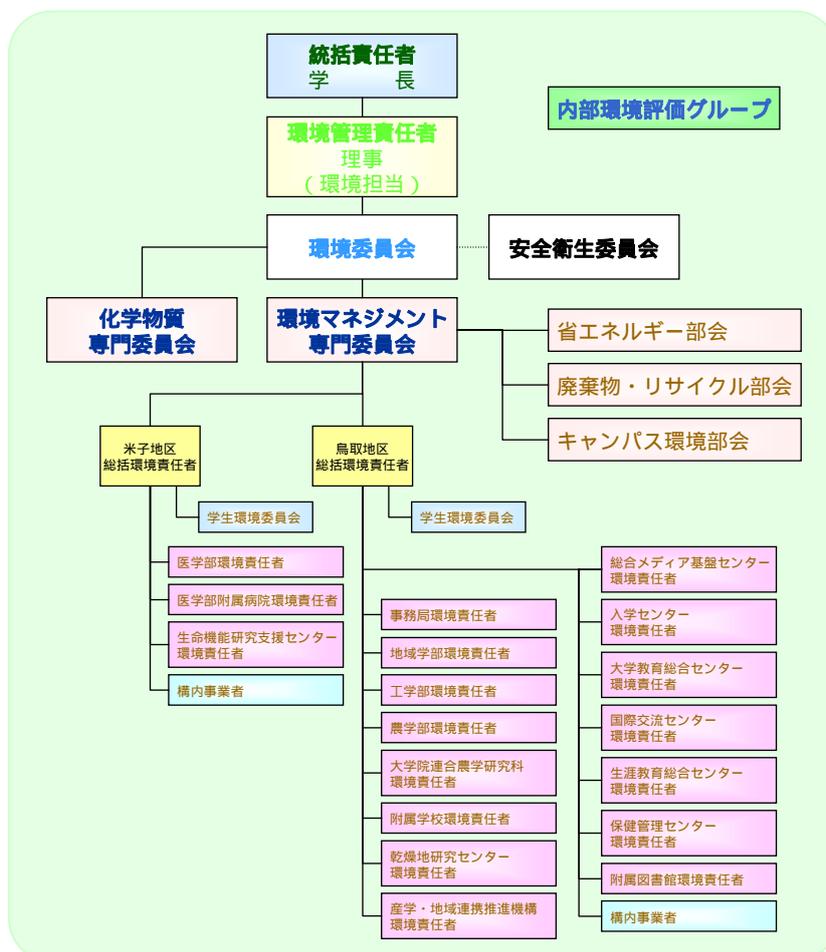
➤ P51

鳥取大学においては、より一層の環境保全活動を推進するため、環境マネジメントシステムを構築し、2007年4月より運用を開始しています。今後マネジメントシステムの更なる充実を図り、本学における環境マネジメントを一層推進していきます。

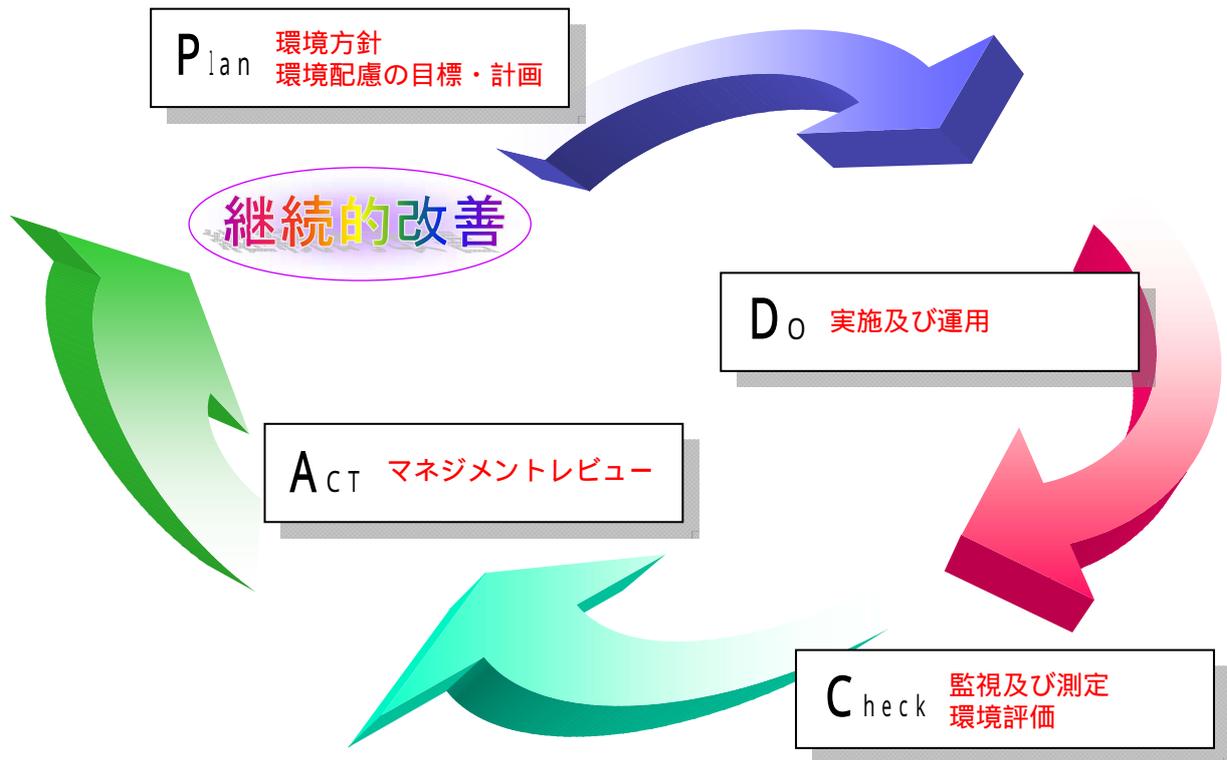
2007年4月現在



完成イメージ



運用状況



教育・訓練

環境マネジメントについて理解を深めるため「環境マネジメントに関する講演会」を実施しました。

「環境マネジメントシステム（EMS）構築にあたって」と題して

環境マネジメントシステム認証制度について
環境マネジメントシステム構築について
環境マネジメントシステム審査について
等について外部講師を招いて実施しました。

講演会後の質疑応答においては、活発な発言が見られ環境マネジメントについて、理解を深めることができる時間となりました。



「地震」「火災」「風水害」その他による大規模災害の発生による、環境への被害を未然に防止し、または災害が発生した場合に、被害を最小限にとどめるため防災の組織、災害時の対応等をまとめた『鳥取大学防災マニュアル』を策定しています。

災害発生時の被害を最小限にとどめるため、マニュアルに沿った定期的な訓練を実施しています。

リスク管理

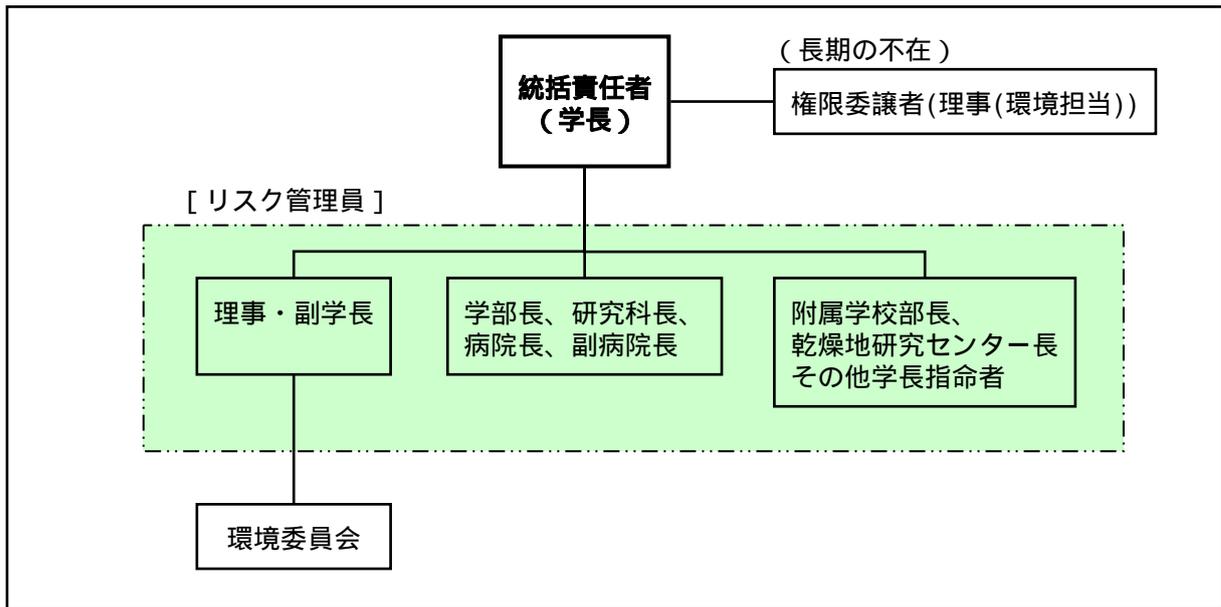
大学で発生するおそれのあるリスクは、地震や風水害などの大規模自然災害にとどまらず、火災、爆発、化学物質の紛失・盗難、放射性物質の漏洩などきわめて多岐に及んでいます。

リスク管理の基本は、平常時における危機の把握と発生防止、いざという時に備える事前準備、危機発生時の迅速かつ的確な対応で被害を最小限に食い止めることにあります。そのためには、発生防止策の策定はもちろん、災害発生時にいつでも素早く対応できるようにしておくことが重要です。

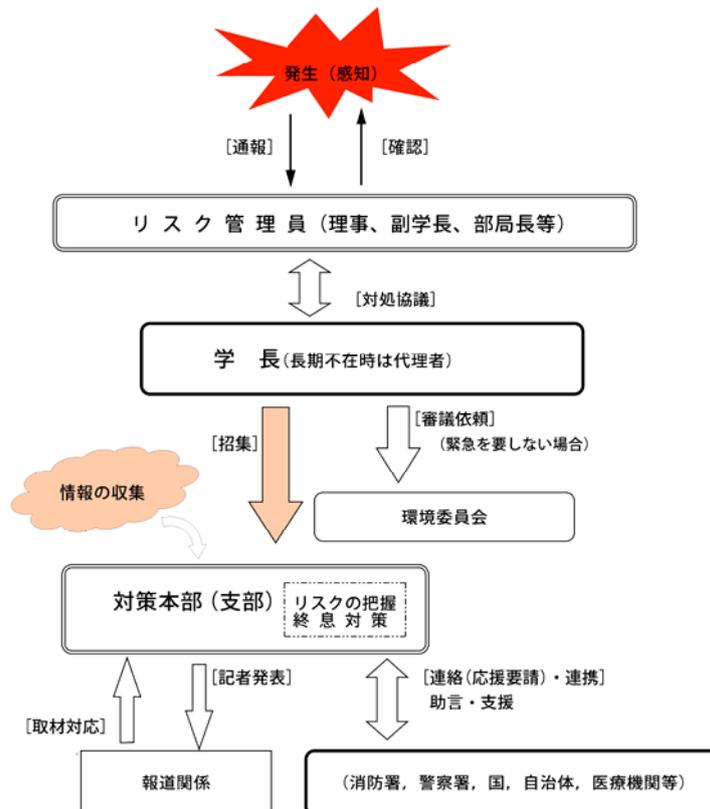
鳥取大学においては、学生、教職員並びに近隣住民等の安全を確保するとともに、大学の社会的責任を果たすことを目的に「鳥取大学リスク管理に関する規則（鳥取大学規則第116号）」を制定し、リスク管理に対応する組織体制を整備しました。これにより指揮命令系統、責任の所在が明らかとなり、リスク発生防止のための取組やリスク発生時における迅速な対応が可能となりました。

また、規則を補完するものとして2007年3月に「リスク管理ガイドライン」を策定しました。

【環境に関するリスク対策の組織】



【リスク事象発生時の基本的な対応フローチャート】



環境配慮の目標・計画

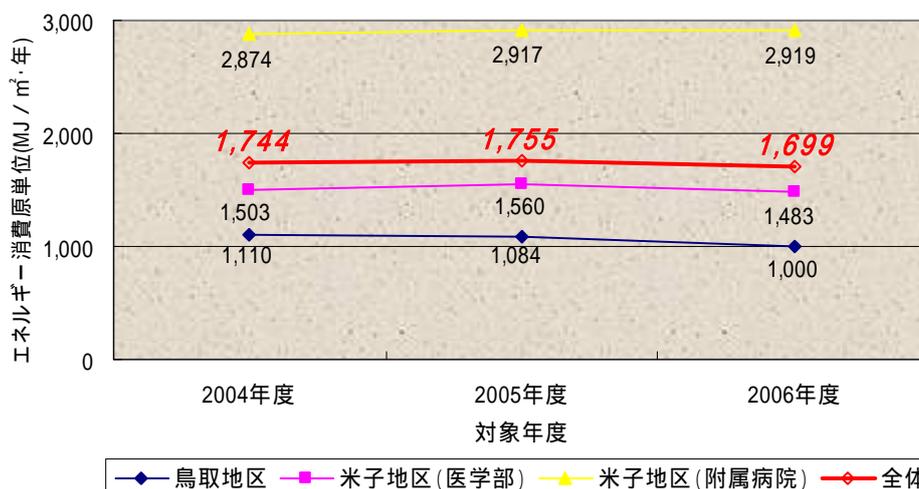
鳥取大学においては、環境配慮の目標・計画を2006年7月に制定しました。

目標	計画	2007年度目標	2010年度目標
エネルギー消費原単位の削減	省エネルギーの推進 監視・測定システムの構築	2006年度比1%削減	2005年度比5%削減
環境マネジメントシステムの構築と充実	推進体制の構築 環境教育の実施	内部環境評価員の養成	環境マネジメントシステムの完全運用
化学物質の把握	推進体制の構築	化学物質使用者に対する教育及び訓練	データベースの構築
廃棄物の削減	推進体制の構築 学内広報の実施	2005年度比1%削減	2005年度比3%削減

2006年度目標の達成状況については、次のとおりです。

目標	計画	2006年度目標	達成状況
エネルギー消費原単位の削減	省エネルギーの推進 監視・測定システムの構築	2005年度比1%削減	
エネルギー消費原単位については、2005年度に比べて3.2%の減少となりました。さらなる省エネルギーの取組を実施し、エネルギー消費原単位を減少させていきます。			
環境マネジメントシステムの構築と充実	推進体制の構築 環境教育の実施	全学的な環境マネジメントの組織体制づくり	
全学的な環境マネジメントシステムを構築し、2007年4月より運用しています。現在のマネジメントシステムにおいては、未整備な部分もありますが、今後マネジメントシステムの充実を図っていきます。			
化学物質の把握	推進体制の構築	担当部署の一元化	
化学物質の把握については、担当部署の一元化を行いました。今後化学物質を安全に保管、使用し正確な情報掌握を行い、継続的な管理を実施するための全学的な方策について検討していきます。			
廃棄物の削減	推進体制の構築 学内広報の実施	廃棄物集計方法の全学統一化	
廃棄物集計方法の全学統一化は図りましたが、集計については一部未達成です。また、学内で分別している廃棄物に対して、収集処分を委託している専門業者が独自の方法で収集するため、今後廃棄物の資源化につながる取組となるように、契約方法も含め検討していきます。			

エネルギー消費原単位

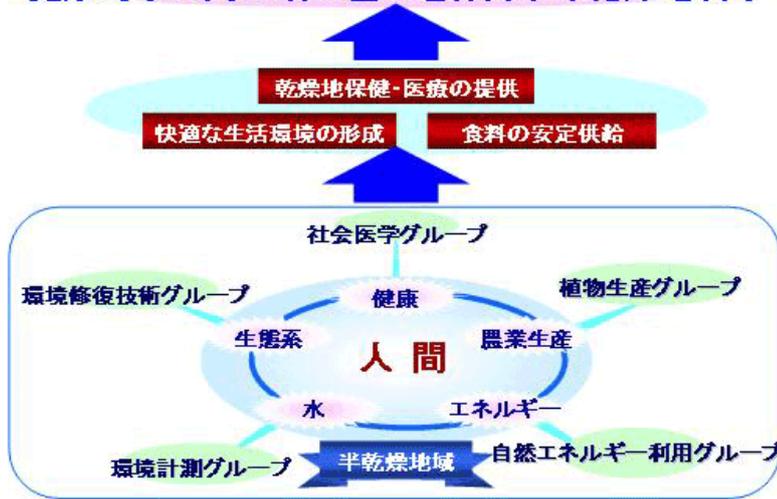


環境に関するプログラム

取組内容		実施学部等
21世紀COEプログラム*5	乾燥地科学プログラム	乾燥地研究センター
特色ある大学教育支援プログラム*6	アウエアネス（自覚）を持った学生づくり教育 - フィールドに学ぶ動機づけ実践プログラム -	大学
大学国際戦略本部強化事業*7	持続性ある生存環境社会の構築に向けて - 沙漠化防止国際戦略 -	大学
戦略的国際連携支援事業*8	持続性ある生存環境に向けての国際人養成 - 沙漠化防止海外実践教育カリキュラム -	大学

乾燥地科学プログラム

健康的な人間生活の営みを保障する乾燥地科学



目的

「新しい乾燥地科学」の創出
若手研究者の育成
海外研究教育基地を乾燥地に設置

現在までの成果

新しい乾燥地科学を「持続性を向上させる実践的科学技術」として体系化
若手研究者間での共同研究の芽生え、海外研究の増加
ICARDA（シリア）、水土保持研究所（中国）との共同研究。

今後の課題

ポストCOE（大型研究資金）の獲得
ポストドクの雇用に対する組織的支援
乾燥地分野における国際的ネットワークの構築（アジア・アフリカを中心としたCWANA+、米国を中心としたIALC）

アウエアネス(自覚)を持った学生づくり計画 - フィールドに学ぶ動機づけ実践プログラム -

概要

フィールドに学ぶ動機づけ実践プログラムをテーマに、学生が大学キャンパスから飛び出し、企業フィールドや国際フィールド等の現場で実践的に学ぶことで、学習意欲を向上させることを目的としたアウエアネス（自覚）を持った学生づくり教育を実施しています。



持続性ある生存環境社会の構築に向けて - 沙漠化防止国際戦略 -

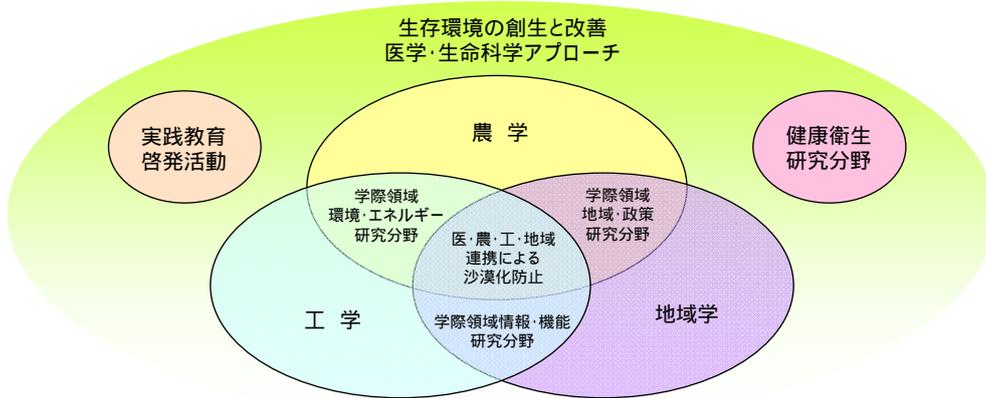
目的

地域学・農学・医学・工学の分野で長年培ってきた教育・研究成果を沙漠化防止に集結し、国際戦略としてこれをグローバルに展開することにより、地域社会の持続的且つ安定的な発展のために世界規模で貢献することを目的としています。

期待される成果

- 沙漠化防止に係る研究対象地域の持続的且つ安定的な発展への提言
- 沙漠化防止に係る国際協力事業の遂行
- 国際的な教育・研究活動による人材育成
- 異なる生存環境に相応しい地域社会形成への提言
- 海外拠点と連携した国際情報ネットワークの構築
- 学際的研究プロジェクトの加速度的進展

概念図



持続性ある生存環境に向けての国際人養成 - 沙漠化防止海外実践教育カリキュラム

概要

沙漠化が進行しつつある乾燥地を有する海外に教育拠点を設置して、講義とフィールドワークによる実践教育カリキュラムを実施することにより、国際的に活躍できる課題解決能力を備えた人材の養成を目的としています。

平成18年度は、メキシコ西部カリフォルニア半島ラパスに位置する南バハカリフォルニア自治大学（UABCS）とメキシコ北西部生物学研究センター（CIBNOR）に、全学から募集、選抜した20名の学生を派遣し、現地教育を行いました。教育は、本学教員をはじめ、UABCS、CIBNORのほか、米国、中国及び韓国の学術交流協定校の教員の協力を得て、英語で授業を行いました。派遣学生を対象に“Multilingual特別教育”として、英語とスペイン語の語学教育を実施しています。



環境に関する研究

閉鎖性水域研究プロジェクト

概要 担当教員：工学部 土木工学科 矢島 啓・松原 雄平 社会開発システム工学科 細井 由彦・増田 貴則
 電気電子工学科 岸田 悟・大木 誠・加藤 義人
 生物応用工学科 福岡 三喜・嶋尾 正行 物質工学科 岡野 多門
 大学院工学研究科 生産環境システム 小幡 文雄・上原 一剛
 農学部 生物資源環境学科 猪迫 耕二・北村 義信・岡 真理子
 フィールドサイエンティスト 佐野 淳之
 地域学部 地域環境学科 石川 行弘・中野 恵文・田村 純一
 医学部 医学科 井上 貴央・川久保 善智

湖山池のように湖沼（ダム湖も含まれます）や港湾のように外部との水の交換があまりない水域のことを閉鎖性水域といいます。このような場所はウエットランドとも呼ばれ、豊かな環境が育まれる一方で、水の交換が少ないため、環境が破壊されやすくなっています。鳥取市と鳥取大学は、湖山池の水質浄化と有効利用を探索するための研究協定書に調印しました。この研究を推し進めているのが、全学部を横断する20名以上の研究者からなる閉鎖性水域研究プロジェクトです。この研究プロジェクトは、貴重な自然環境を持つ閉鎖性水域の重要性を認識し、その環境を回復させるための研究を中心に活動しています。

研究チーム

- 水質浄化チーム1：湖水・底質の直接浄化装置の開発と実証
- 水質浄化チーム2：生物材料及び無機材料を用いた水質浄化剤の開発
- 環境評価チーム：湖山池における効率的な環境保全対策の検討
- 地域振興チーム：湖山池の観光資源としての歴史的価値を見いだす研究

リアルタイム水質モニタリングシステムの構築

湖山池の最深部（水深約6.8m）において、表層と低層の2点に多項目水質計を設置し、常時、水温・塩分・溶存酸素などの水質をモニタリングしています。データは閉鎖性水域研究プロジェクトのホームページに自動的にアップロードされ、24時間湖山池の水質をみることができます。
 ・ホームページのURL <http://www.cv.tottori-u.ac.jp/cwa.html>



過疎社会経営科学研究プロジェクト

概要 担当教員：工学部 社会開発システム工学科 細井 由彦・松見 吉晴・谷本 圭志・小池 淳司・小柳 淳二・
 得能 貴一・増田 貴則・赤尾 聡史
 知能情報工学科 菅原 一孔・川村 尚生 土木工学科 矢島 啓
 農学部 フィールドサイエンティスト 日置 佳之

都市の後追いではなく、地域が自立するための術を見出すとともに、実情にあった社会システムを経営するための技術の確立が緊急の課題となっています。過疎社会経営科学研究プロジェクトでは、行政機関や企業、一般市民の皆様との連携に基づいて、地方都市・過疎地域の経営技術に関する研究を推進し、地域環境・生活の質の持続可能な発展のための総合的な方法を確立することを目指しています。

また、本プロジェクトの意義や基本的な機能を皆様に知っていただくとともに、これまでに蓄積してきた成果の一部を報告することを目的に研究発表会を開催しています。

研究内容

- 暮らしやすさと定住の関係
- 定住と生活の質の関係の分析
- 生活の質の計測指標の開発
- 地域外居住者の定住条件の把握
- 身の丈に合った政策形成方策
- 地域資源集約手法の構築
- 各種サービスの成立可能性の評価
- 各セクター間での役割分担
- 分野横断的な課題解決策の導出
- 分野横断的評価システムの確立
- 住民による政策選択手法の開発
- 効率性診断手法の開発

研究組織

- (仮称)過疎社会研究センター
- 生活基盤グループ
- 社会経済グループ
- 地域産業グループ
- 地域医療グループ
- 環境・生態系グループ
- ：

連携

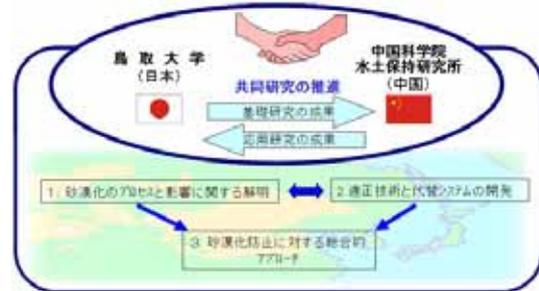
- 日南町地域活性化研究教育センター
- 鳥取県、鳥取県内および周辺の自治体
- 他大学、海外研究機関



中国内陸部の砂漠化防止及び開発利用

概要 担当教員：乾燥地研究センター 生物生産部門 恒川 篤史・安 萍・坪 充
 乾地環境部門 篠田 雅人・安養寺 久男・木村 玲二・安田 裕
 緑化保全部門 玉井 重信・山本 太平・山中 典和・井上 光弘
 総合的砂漠化対処部門 縄田 浩志
医学部 医学科 黒沢 洋一・小谷 和彦
工学部 社会開発システム工学科 小池 淳司
農学部 生物資源環境学科 山田 智・北村 義信・本名 俊正・山本 福壽・田中 浄・
 山本 定博・猪迫 耕二・長澤 良太

この拠点大学交流事業の目的は、中国内陸部の砂漠化ベンチマーク地域を対象に、砂漠化防止に係る実践的研究を行い、世界に活用できる乾燥地の砂漠化防止と開発利用の総合的対策モデルを構築することを目的としています。研究対象は中国内陸部の砂漠化地域であり、特に黄土高原の砂漠化地域を重点研究地域として、砂漠化とその防止に関する様々な問題について日中の研究者が協力し研究を行っています。これらの研究成果を基にして、総合的な砂漠化防止対策を確立し、地域社会の持続的発展方向を提示することがねらいです。



ブラジル東北部半乾燥地(カアチンガ)に於ける荒廃地域の再植生技術の開発プロジェクト

概要 担当教員：農学部 生物資源環境学科 山本 福壽・佐藤 俊夫
 乾燥地研究センター 緑化保全部門 玉井 重信

国際協力機構（JICA）を通じた技術協力として2004年から2006年にかけてブラジル東北部半乾燥地で荒廃地域の再植生技術 - 樹種の選定、発芽・移植、家畜飼料樹の選定、乾草作り・給餌、これら開発技術の普及に関わる技術 - の開発を行いました。

研究者のコメント 農学部 生物資源環境学科 佐藤 俊夫

ブラジル東北部半乾燥地に広がる広大な有棘低木林であるカアチンガが農民によって薪炭用・農地造成のために過剰伐採され、しかも、その後のケアが十分になされないために、著しく荒廃し、これ以上の荒廃は地球環境に悪影響を及ぼす恐れがあります。そこで、この拡大防止のために、再植生技術の開発やその成果である草木の畜産的利用技術の開発も行われています。しかし、これらの技術は農民へ普及されて始めて有意義となります。そこで、普及ルート開発のために乳業（ヤギ乳・牛乳）組合や農業普及公社等に対する面接調査、普及のためのモデル農場作りのための優良農場の調査、また調査のための農業経営調査表の作成、調査結果の分析法の教授等を行いました。



植生ボードを用いた屋上緑化試験施工

概要 担当教員：地域共同研究センター 作野 友康

鳥取県からの委託研究（平成14-15年度）の成果を基礎として平成16年度に研究開発した、「廃木材チップに種子を配合してボード化した植生ボード」の実用化利用試験をするため、「屋上緑化施設」としての試験施工を実施しました。

研究者のコメント

鳥取大学施設環境部の屋上に試験施工した「植生ボード」を用いた屋上緑化の試験は、現在芝が順調に生育しております。施工以来ボード中に封入した芝種子は順調に発芽して成育し、一面緑の芝で覆われております。同時にボードを用いないで直播した部分より芝の生長がよく、また斑ができずに均一に緑化しています。

鳥取県西部地域の企業を中心とした方々の「鳥取大学訪問」の機会に現場を見学していただきました。

今後、厳しい暑さに対する屋上緑化による断熱効果がおおいに期待できます。



取組内容	学部等	学科等	担当教員
水を浄化する天然石	地域学部	地域環境学科	中野 恵文
千代川の生物多様性調査	地域学部	地域環境学科	鶴崎 展巨 永松 大
鳥取県の外来種調査	地域学部	地域環境学科	鶴崎 展巨 永松 大
多点同時温熱環境測定システムの開発	地域学部	地域環境学科	安藤 由和
水産系廃棄物の廃棄物利用による環境負荷軽減	地域学部	地域環境学科	田村 純一 石川 行弘
イカ加工産物の有効利用、水産加工廃棄物の資源化	地域学部	地域環境学科	田村 純一
自然エネルギー資源の開発と利用	地域学部	地域環境学科	田川 公太郎
廃食用油燃料によるディーゼル発電	医学部	保健学科	田中 俊行
	工学部	機械工学科	落合 義孝
	地域学部	地域環境学科	中野 恵文
ミネラルバランスによるナチュラルミネラルウォーターの水質評価	医学部	医学科	祝部 大輔
機械の騒音低減	工学部	機械工学科	西村 正治
波力発電、温度差発電	工学部	知能情報工学科	有井 士郎
静電気を利用した環境に優しい農薬散布法	工学部	電気電子工学科	西村 亮
シリカ蒸着ゼオライトによる副生成物のない化学合成プロセス・シリカ蒸着ゼオライト膜等	工学部	物質工学科	丹羽 幹 片田 直伸 奥村 和
廃棄物を未利用資源として活用した梨酢の製造	工学部	物質工学科	斎本 博之
	生命機能研究支援センター	機器分析分野	森本 稔
海浜漂着ゴミの調査	工学部	物質工学科	岡野 多門
焼却灰溶融スラグのコンクリート用骨材への適用、灰瓦破砕物のコンクリート用骨材への適用等	工学部	土木工学科	井上 正一
千代川の河川環境、湖山池・東郷池における湖沼環境	工学部	土木工学科	檜谷 治 矢島 啓
貯水池における貧酸素対策で用いる水中型気液溶解装置の特性	工学部	土木工学科	矢島 啓
閉鎖性水域における環境負荷を考慮した効率的な水質浄化	工学部	土木工学科	矢島 啓
殿ダム貯水地内及びダム下流河川の水質予測評価	工学部	土木工学科	矢島 啓
人口減少下における上下水道・廃棄物処理システムの計画手法	工学部	社会開発システム工学科	細井 由彦
中山間地域における環境系ライフラインの地震防災対策	工学部	社会開発システム工学科	細井 由彦
廃棄物処理政策の経済分析	工学部	社会開発システム工学科	小池 淳司
非特定汚染源からの汚濁負荷流出対策	工学部	社会開発システム工学科	増田 貴則
生活排水処理汚泥の処理・利活用システムの評価	工学部	社会開発システム工学科	増田 貴則
公共用水域の水質保全効果の便益評価	工学部	社会開発システム工学科	増田 貴則
生ごみを利用したL-乳酸発酵	工学部	社会開発システム工学科	赤尾 聡史

取組内容	学部等	学科等	担当教員
乾燥地における土壌劣化機構の解明と持続的農業発展のための環境修復	農学部	生物資源環境学科	本名 俊正
森林・棚田維持保全活動	農学部	生物資源環境学科	能美 誠 山本 福壽
西高尾ダム湖水の赤潮発生とプランクトン相	農学部	生物資源環境学科	藤山 英保
モデルによる汽水湖の環境動態予測と最適な塩分管理の対策	農学部	生物資源環境学科	藤山 英保
乾燥地耕地生態系破壊の現状解析と生物学的修復及び保全	農学部	生物資源環境学科	藤山 英保
中国黄土高原下流域における物質循環を利用した塩害対策と農地保全	農学部	生物資源環境学科	北村 義信
地域農業水利施設の修復と土地改良区の活性化	農学部	生物資源環境学科	服部 九二雄
沙漠化土地での砂丘固定策に関する考察（中国）	農学部	生物資源環境学科	奥村 武信
砂丘農業地帯における地下水の硝酸態窒素汚染の実態解明と施肥体系の改善	農学部	生物資源環境学科	山本 定博
未利用資源としての石炭灰及びダム堆積土の栽培用土の開発	農学部	生物資源環境学科	山本 定博
中央アジア・アラル海周辺における塩類集積と土壌劣化の実態	農学部	生物資源環境学科	山本 定博
犬の肺における浮遊粒子状物質（大気汚染物質：黄砂等）の集積	農学部	獣医学科	島田 章則
鳥取県中山間地域の活性化を目指した休耕田によるホンモロコ養殖	農学部	獣医学科	斎藤 俊之
日南町研究拠点事業～自然環境マップ作成及び自然ガイド養成、農林業振興～	農学部	フィールドサイエンスセンター	日置 佳之
乾燥地科学プログラム（21世紀COEプログラム）			
乾燥地研究センター 生物生産部門：恒川 篤史・安 萍 乾地環境部門：安養寺 久男・木村 玲二・安田 裕 緑化保全部門：山本 太平・山中 典和・井上 光弘 総合的砂漠化対処部門：縄田 浩志 医学部 医学科：能勢 隆之・黒沢 洋一 工学部 土木工学科：檜谷 治 応用数理工学科：林 農 農学部 生物資源環境学科：本名 俊正・北村 義信・田中 浄・山田 智			
水循環型緑化・居住空間創生・生物生産システムの開発	乾燥地研究センター	生物生産部門	恒川 篤史 安 萍
廃ガラス発泡体を用いたリン酸リサイクルシステムの構築	乾燥地研究センター	生物生産部門	安 萍
乾燥地域の農業生産システムに及ぼす地球温暖化の影響	乾燥地研究センター	緑化保全部門	玉井 重信
乾燥地条件下でゼオライト・コットン素材が植物の活着・成長に与える効果	乾燥地研究センター	緑化保全部門	玉井 重信 山中 典和
東伯農業水利事業水質調査	乾燥地研究センター	緑化保全部門	山本 太平
	農学部	生物資源環境学科	藤山 英保
乾燥地など原野土壌に対する土壌保全及び緑化	乾燥地研究センター	緑化保全部門	山本 太平
	農学部	生物資源環境学科	藤山 英保 中島 廣光
DDライムの有効利用	乾燥地研究センター	緑化保全部門	山本 太平
里山における生態系の機能の再生・向上技術の開発	乾燥地研究センター	緑化保全部門	山中 典和
現場不飽和土壌中の水分量・塩分濃度・地温の同時計測技術の開発	乾燥地研究センター	緑化保全部門	井上 光弘
砂丘畑のラッキョウ種球栽培と窒素施用	乾燥地研究センター	緑化保全部門	井上 光弘
	農学部	生物資源環境学科	山本 定博
種々マルチ材による土壌面蒸発抑制と温度環境	乾燥地研究センター	緑化保全部門	井上 光弘
バイオマスエネルギー高効率転換基盤技術開発	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー		築瀬 英司 岡本 賢治
生理活性コンドロイチン硫酸の水産系廃棄物からの抽出と製品化	ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー		田村 純一

環境に関する教育

地域環境調査実習・地域環境づくり論

概要 担当教員：地域学部 地域環境学科 岡田 昭明・矢野 孝雄・小玉 芳敬・鶴崎 展巨・永松 大・錦織 勤・高田 健一・安藤 由和・田川 公太郎・中野 恵文・田村 純一・松本 健治・國土 将平

鳥取県東部の地域環境を対象に、自治体や地域の方々にご援助をいただきながら、2年次には調査研究の設計・実施を、3年次前期には成果発表と報告書作成という課題を、学生が主体的に遂行することを目的としています。

① 調査・研究



② 成果発表



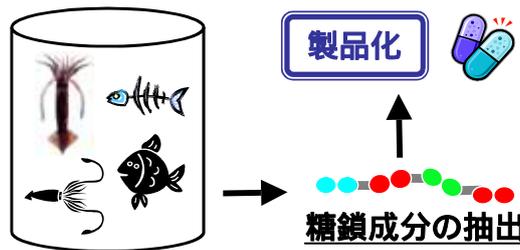
③ 報告書作成



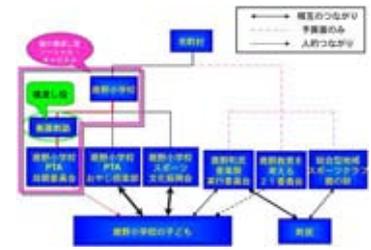
これまでの調査研究の中から、地域に貢献する具体的成果も数多く生まれています（倉谷湿原の県指定文化財化、嵐ヶ鼻土手の歴史-景観資源評価、自然エネルギー賦存量調査、天然石の吸着剤利用、水産系廃棄物の資源化、モリンガ種子による湖沼水浄化、ダニアレルゲン低減への提案、ライフスタイル改善の提言など）。さらに、実習の中期目標としてかかげた千代川流域圏全体の環境構造の解明も進展しています。



倉谷湿原ザゼンソウ群落調査



水産系加工産廃の資源化



小学生の生活習慣改善に関わるソーシャルキャピタル評価

化学実験演習

概要 担当教員：医学部 保健学科 田中 俊行

実際に手を動かし、化学変化を観察することによって、化学現象の知識を体験すること、及び実験結果をレポートの形にまとめる能力を養うことを目標としています。実験は、金属イオンの分離・検出、及び滴定分析などの分析化学実験が主体です。時間的、空間的に秩序性を生み出す振動反応の実験も体験できます。

1回目の授業において、生活排水処理施設の見学を行うことにより、排水における水質の汚濁防止を図っていることを学びます。



受講生のコメント

- ・今まで汚水の処理は考えたこともなかったですが、化学が発達した今でも、環境によって変化してしまう微生物を使っているのは、見た目の小さい微生物の大きな力を感じました。汚水処理施設は、私達の生活にとって必要不可欠な場所ですが、ほとんどの人が知らない場所であると思います。この機会に見学できて良かったと思いますし、知っておくべき場所だと感じました。（医学部 保健学科 森 麻衣子）
- ・最初に見た行程では、予想以上に固まっているという印象を受けました。これで流れていくのだろうかという疑問に思いましたが、詰まった物は取り除くことを聞き納得しました。微生物を使用する行程では、冬場の気温が下がる時期に微生物の活性が弱まるので、微生物や空気の量を調整しなければならず大変そうだと感じました。様々な行程を通して、尿尿は処理されているのを知り、多くの手間が必要だと感じました。（医学部 医学科 山崎 彰）

廃棄物・環境管理

概要 担当教員：工学部 社会開発システム工学科 細井 由彦・増田 貴則・城戸 由能（京都大学）

廃棄物の問題は現代の生活スタイルそのものに関連する問題であり、持続的な発展を続ける上で避けて通ることのできない問題です。本講義では、国内の廃棄物問題の経緯や特性を整理するとともに、その対応策を通して廃棄物問題解決のためのアプローチ、さらには環境問題全般の計画・管理技法について学習します。また、廃棄物の処理・処分やリサイクルの実態を学ぶため、鳥取県東部地域の廃棄物処理・処分施設の見学を行っています。



日韓学生交流環境セミナー

概要

交流協定締結先である韓国江原大学校環境科学科と鳥取大学社会開発システム工学科、土木工学科の水環境関係の研究室メンバーが平成15年より毎年相互に訪問し、学生による研究発表、教員による講演、水環境に関する現地の視察などを内容とする交流セミナーを実施しています。4回目の本年は江原大学校にて開催しました。学生の環境問題に対する理解と研究意欲を高め、国際理解と友好を深める大きな効果をあげています。

参加学生のコメント

環境に関する研究を進めていく上で、今まで隣の国「韓国」の環境について深く考えたことがありませんでした。この交流セミナーを通して日本と韓国の環境問題の違いを感じ、視野を広げることができたと思います。また、韓国の人の積極性に驚きました。消極的になっていた日本人と違い、韓国語の分からない私たちに一生懸命話しかけ、なんとかコミュニケーションを取ろうとしていたのが印象的でした。このセミナーを通し、日本と韓国で共通する環境問題をお互い協力し合って解決することができればと思いました。また韓国に行きたいです。（工学部 社会開発システム工学科 小川 愛子）



キャンパスの樹木について （三浦団地） - 鼎（かなえ）の松 -

地域学部の正面左側に美しい樹姿の三本松があります。この名木は、鳥取大学発足以前から旧教育学部地内に植えてあったもので、稲葉山から見出され植栽されたといわれています。三本にわかれた幹を、それぞれ教員・職員・学生になぞらえ、三者が一体となって、血のつながった学園を形成したいとの願いから、統合移転の際に移植されました。（環境マップP56）



きみもなろう「砂漠博士」 - 砂漠とは何？ -

砂だけで出来ている砂砂漠、細かな粘土や土で出来ている土砂漠、石が散らばっているレキ砂漠、巨大な岩が多く出ている岩石砂漠などがあります。砂漠といっても様々な砂漠があります。



乾燥地研究センターの実験施設 アリドドーム実験施設
ドーム状のガラス温室・現地情報に基づいて乾燥地のシミュレーション実験を行う大型の人工環境制御施設
- を中心に構成されています。

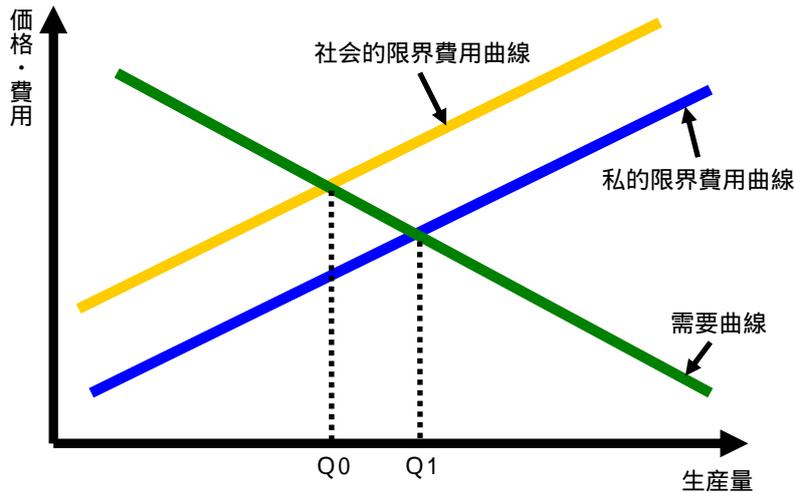


環境経済学

概要 担当教員：農学部 生物資源環境学科 能美 誠

21世紀は“環境の世紀”といわれているように、世界はいま環境問題の解決に迫られています。環境問題には、環境にやさしい技術をいかに開発するかという自然科学分野の問題という側面がありますが、他方、人間活動の営みの結果として環境問題が生まれているため、環境問題は社会科学分野の問題でもあります。環境経済学は環境問題発生メカニズムや課題および解決方法を経済学的な視点から取り組む学問です。環境経済学では、地球温暖化問題、オゾン層の破壊等といった地球レベルの問題から、国内の河川や土壌の汚染問題、さらには近隣同士で発生する騒音問題等、さまざまな規模の環境問題が分析対象となります。

現在、農学部で開設している「環境経済学」（2単位）は、毎年、生物資源環境学科のさまざまなコースの学生が履修しています。内容的には、環境問題の経済学的把握、環境評価法、環境政策の経済的手段、環境資源問題等について取り扱っています。



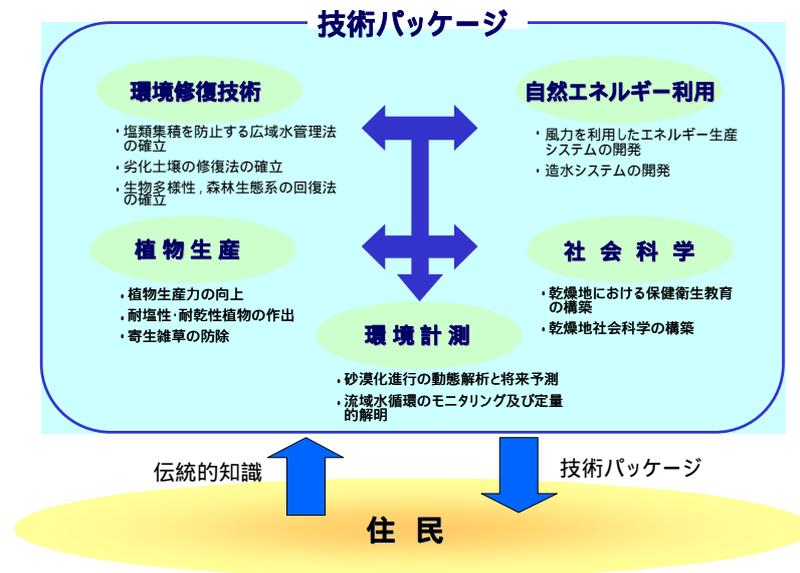
外部不経済が存在する場合の財の過大生産の経済学的原理

乾地環境科学概論

概要 担当教員：乾燥地研究センター 乾地環境部門 篠田 雅人・安養寺 久男・安田 裕・木村 玲二

気候学、気象学、水文学の立場から、乾燥地における環境について講義を行っています。例えば、異常気象をもたらすブロッキング現象やエルニーニョ現象、そして地球温暖化と乾燥地における気候変化との関わりや砂漠化がもたらす気候変化などを最新の研究結果を織り交ぜながら解説しています。

乾燥地における環境科学の役割



講義名	学部等	学科等	担当教員
総合演習	地域学部	地域環境学科	全教員
環境計測・評価学演習	地域学部	地域環境学科	全教員
地域環境成立史	地域学部	地域環境学科	矢野 孝雄
自然環境論	地域学部	地域環境学科	岡田 昭明・永松 大
地球環境科学	地域学部	地域環境学科	岡田 昭明
地球環境科学実験	地域学部	地域環境学科	岡田 昭明
北東アジア環境論	地域学部	地域環境学科	鶴崎 展巨・矢野 孝雄・ 錦織 勤・松本 健治
環境統計学	地域学部	地域環境学科	鶴崎 展巨・國土 将平
共生環境論	地域学部	地域環境学科	鶴崎 展巨・高田 健一
多様性生物学	地域学部	地域環境学科	鶴崎 展巨
多様性生物学実験	地域学部	地域環境学科	鶴崎 展巨・永松 大
歴史環境論	地域学部	地域環境学科	錦織 勤
地域環境学	地域学部	地域環境学科	松本 健治・矢野 孝雄
産業環境論	地域学部	地域環境学科	安藤 由和・田川 公太郎
環境物理学	地域学部	地域環境学科	安藤 由和
環境物理学実験	地域学部	地域環境学科	安藤 由和・田川 公太郎
循環環境論	地域学部	地域環境学科	中野 恵文・田村 純一
環境化学実験	地域学部	地域環境学科	中野 恵文・田村 純一
地域環境調査論	地域学部	地域環境学科	小玉 芳敬・國土 将平
流域地形学	地域学部	地域環境学科	小玉 芳敬
自然災害論	地域学部	地域環境学科	小玉 芳敬
保全生態学	地域学部	地域環境学科	永松 大
環境行動論	地域学部	地域環境学科	國土 将平
環境調和型物質論	地域学部	地域環境学科	田村 純一
地域エネルギー論	地域学部	地域環境学科	田川 公太郎
環境考古学	地域学部	地域環境学科	高田 健一
わが国における環境汚染と公害	医学部	医学科	岡本 幹三
地球環境問題	医学部	医学科	岡本 幹三
環境衛生学	医学部	保健学科	浦上 克哉
環境衛生学実習	医学部	保健学科	浦上 克哉・谷口 美也子
廃棄物処理論	医学部	保健学科	田中 俊行
環境と有機化学	医学部	保健学科	田中 俊行
化学実験演習	医学部	保健学科	田中 俊行
騒音制御工学特論	工学部	機械工学科	西村 正治
機器分析	工学部	物質工学科	丹羽 幹・片田 直伸・奥村 和
触媒化学	工学部	物質工学科	丹羽 幹・片田 直伸・奥村 和
触媒化学特論	工学部	物質工学科	丹羽 幹・片田 直伸・奥村 和
表面化学特論	工学部	物質工学科	丹羽 幹・片田 直伸・奥村 和
環境化学	工学部	物質工学科	岡野 多門
環境制御工学	工学部	生物応用工学科	築瀬 英司
応用微生物学	工学部	生物応用工学科	嶋尾 正行
環境土木工学	工学部	土木工学科	井上 正一・檜谷 治・清水 正喜
河川工学	工学部	土木工学科	檜谷 治
水工計画学特論	工学部	土木工学科	矢島 啓
地球環境情報工学	工学部	土木工学科	塩崎 一郎

講義名	学部等	学科等	担当教員
環境基礎科学	工学部	社会開発システム工学科	細井 由彦・増田 貴則
環境計画学	工学部	社会開発システム工学科	細井 由彦・増田 貴則
環境評価工学	工学部	社会開発システム工学科	細井 由彦・増田 貴則
上下水道・水質管理	工学部	社会開発システム工学科	細井 由彦
水環境工学	工学部	社会開発システム工学科	細井 由彦
環境衛生工学	工学部	社会開発システム工学科	細井 由彦
環境システム工学	工学部	社会開発システム工学科	増田 貴則
社会開発工学実験	工学部	社会開発システム工学科	増田 貴則・赤尾 聡史
土壌学	農学部	生物資源環境学科	本名 俊正
土壌圏環境科学実験	農学部	生物資源環境学科	本名 俊正・山本 定博
果樹園芸学	農学部	生物資源環境学科	田邊 賢二
応用環境微生物	農学部	生物資源環境学科	中島 廣光
農薬化学	農学部	生物資源環境学科	中島 廣光
生物環境評価学実験	農学部	生物資源環境学科	藤山 英保・岡 真理子
地圏環境保全学	農学部	生物資源環境学科	田熊 勝利
環境アセスメント論	農学部	生物資源環境学科	長澤 良太
		フィールド・サイエンスセンター	日置 佳之
環境アセスメント演習	農学部	生物資源環境学科	長澤 良太
		フィールド・サイエンスセンター	日置 佳之
景観生態学	農学部	生物資源環境学科	長澤 良太
森林科学実習	農学部	生物資源環境学科	長澤 良太
流域環境管理学	農学部	生物資源環境学科	八木 俊彦
生産環境化学特別演習	農学部	生物資源環境学科	岡 真理子
環境計画学	農学部	生物資源環境学科	清水 克之
水理学	農学部	生物資源環境学科	清水 克之
水圏環境科学	農学部	生物資源環境学科	清水 克之
水圏環境科学演習	農学部	生物資源環境学科	清水 克之
環境ホルモンの生物影響	農学部	獣医学科	山野 好章
放射線生物学	農学部	獣医学科	山野 好章
分子生物学特論	農学部	獣医学科	山野 好章
農場基礎実習演習	農学部	フィールド・サイエンスセンター	中田 昇・田村 文男・ 日置 佳之
		生物資源環境学科	中野 淳一
生物生産システム工学	農学部	フィールド・サイエンスセンター	唐橋 需
森林生態学	農学部	フィールド・サイエンスセンター	佐野 淳之
環境・森林法律	農学部	フィールド・サイエンスセンター	日置 佳之
生態工学	農学部	フィールド・サイエンスセンター	日置 佳之
国際環境政策学	農学部	フィールド・サイエンスセンター	日置 佳之
乾地気象環境学特論	乾燥地研究センター	乾地環境部門	篠田 雅人
乾地気象環境学特別演習	乾燥地研究センター	乾地環境部門	篠田 雅人
乾地水資源利用学特論	乾燥地研究センター	乾地環境部門	安養寺 久男
乾地水資源利用学特別実験	乾燥地研究センター	乾地環境部門	安養寺 久男
乾地水資源開発学特論	乾燥地研究センター	乾地環境部門	安田 裕
乾地水資源開発学特別演習	乾燥地研究センター	乾地環境部門	安田 裕

講義名	学部等	学科等	担当教員
乾地応用気象学特論	乾燥地研究センター	乾地環境部門	木村 玲二
乾地応用気象学特別実験	乾燥地研究センター	乾地環境部門	木村 玲二
乾地生物生産学概論	乾燥地研究センター	生物生産部門	恒川 篤史・安 萍・坪 充
		総合的砂漠化対処部門	縄田 浩志
乾地生態生理学特論	乾燥地研究センター	生物生産部門	恒川 篤史
乾地植物生産学特論	乾燥地研究センター	生物生産部門	恒川 篤史
乾地生態生理学特別演習	乾燥地研究センター	生物生産部門	恒川 篤史
乾地植物生産学特別演習	乾燥地研究センター	生物生産部門	恒川 篤史
乾地植物機能学特論	乾燥地研究センター	生物生産部門	安 萍
乾地植物機能学特別演習	乾燥地研究センター	生物生産部門	安 萍
乾地施設栽培学特論	乾燥地研究センター	生物生産部門	坪 充
乾地施設栽培学特別演習	乾燥地研究センター	生物生産部門	坪 充
乾地緑化保全学概論	乾燥地研究センター	緑化保全部門	山本 太平・玉井 重信・井上 光弘・山中 典和
乾地土地保全学特論	乾燥地研究センター	緑化保全部門	山本 太平
乾地土地保全学特別演習	乾燥地研究センター	緑化保全部門	山本 太平
乾地緑化学特論	乾燥地研究センター	緑化保全部門	玉井 重信
乾地緑化学特別演習	乾燥地研究センター	緑化保全部門	玉井 重信
乾地土壌管理学特論	乾燥地研究センター	緑化保全部門	井上 光弘
乾地土壌管理学特別実験	乾燥地研究センター	緑化保全部門	井上 光弘
乾地植生学特論	乾燥地研究センター	緑化保全部門	山中 典和
乾地植生学特別実験	乾燥地研究センター	緑化保全部門	山中 典和
乾地文化人類学特論	乾燥地研究センター	総合的砂漠化対処部門	縄田 浩志
乾地社会生態学特論	乾燥地研究センター	総合的砂漠化対処部門	縄田 浩志
日本事情	国際交流センター		若 良二・竹田 洋志・DAGNACHEW AKLOG YIHUN
環境教育論	生涯教育総合センター		大谷 直史
環境社会学	全学共通科目	地域学部 地域政策学科	家中 茂
現代都市の諸問題	全学共通科目	地域学部 地域政策学科	藤井 正
環境電気基礎	全学共通科目	工学部 電気電子工学科	中西 功
ハイテク未来とマテリアルサイエンス	全学共通科目	工学部 物質工学科	伊藤 敏幸 他
バイオテクノロジーの最前線	全学共通科目	工学部 生物応用工学科	溝端 知宏 他
社会を動かすシステム	全学共通科目	工学部 社会開発システム工学科	細井 由彦 他
水と土と緑	全学共通科目	農学部 生物資源環境学科	猪迫 耕二 他
森からのメッセージ～緑の科学入門～	全学共通科目	農学部 生物資源環境学科	八木 俊彦 他
水土の知を学ぶ	全学共通科目	農学部 生物資源環境学科	北村 義信 他
食糧生産のサイエンス	全学共通科目	農学部 生物資源環境学科	田邊 賢二 他
国際化社会の食料・環境問題	全学共通科目	農学部 生物資源環境学科	古塚 秀夫 他
生存基礎としての農林業	全学共通科目	農学部 生物資源環境学科	佐藤 俊夫 他
環境ホルモンの生物影響	全学共通科目	農学部 獣医学科	山野 好章・太田 康彦
野生生物と新たな感染症	全学共通科目	農学部 獣医学科	伊藤 壽啓
放射線科学	全学共通科目	生命機能研究支援センター放射線応用化学分野	木村 宏二

ボランティアの状況

取組内容	主催
鳥取砂丘における韓国学生による「海洋ゴミ回収」	鳥取市、鳥取県東部地区日韓親善協会、鳥取大学国際交流センター
鳥取大学を美しくする会	鳥取大学大学教育総合センター
鳥取砂丘除草	鳥取砂丘景観保全協議会

鳥取砂丘における韓国学生による「海洋ゴミ回収」

概要

近年、日本海沿岸に韓国のもと思われる多くの「海洋ゴミ」が漂着物として打ち上げられ、海岸の安全・環境・美観の面から大きな社会問題となっています。このような現状を少しでも改善することは、日本海を共同水域とする日韓両国にとってきわめて重要なことであります。

韓国で何気なく捨てたゴミが遠く離れた日本の海岸を汚染しているという事実を韓国の若い学生が実感し、日韓共通の資源である日本海における「海洋ゴミ」への問題意識を高めることは、今後の日韓関係においてもきわめて意義深いものと思われます。

韓国天安市にある「南ソウル大学校」を中心に、公州大学校及び韓信大学校の3大学から総勢10名が鳥取市を訪問し、鳥取大学との共同事業として、鳥取砂丘において「海洋ゴミ回収」を実施しました。



鳥取大学を美しくする会

設立の趣旨

- (1) 我々の勉強・研究・生活の場である大学のキャンパス・教室・諸施設が、常に清潔で快適な環境として維持されるよう助力すること
- (2) 自分の周囲の環境を美しくすることで、自分の「心のすさみ」を少しでもなくしていきたい

活動内容

鳥取大学の学生、教職員であれば誰でも参加でき、原則として週1回大学内の清掃等を行っています。また、夏休みは土曜日を除く毎朝活動しています。

これまでに取り組んだ主な活動は、放置自転車の始末、自転車置場の清掃、キャンパス全体（特に側溝の中）のちり・ゴミ拾い。今後は、教室やトイレの清掃にも手を広げていく予定です。

設立者のコメント 大学教育総合センター 武田 修志

「会」を名乗っていますが、特に「会員」がいるわけではありません。鳥取大学を、もっときれいで雰囲気の良い大学にしたいと思っている学生と教員の小集団です。これまでのところ、多い時で15名、少ない時で2名の参加者で活動を続けてきました。「良いことは目立たないところである」を基本姿勢にしていますが、それにしても、もう少し多くの参加者があれば、鳥大キャンパスはもっとすみやかに、もっと美しくなるだろうなどは、最近折に触れ漏れる嘆息です。この会の活動へ参加して、鳥取大学を日本一美しい大学にしてみませんか。



社会（地域）貢献の状況

「湖山池の水質浄化及びその有効利用に関する研究」成果発表会

概要 閉鎖性水域研究プロジェクト

鳥取大学と鳥取市との研究協定にもとづき行っている「湖山池の水質浄化及びその有効利用に関する研究」の成果を、企業者、研究者等に公開しました。本成果発表会により、各関連機関に情報提供を行うとともに、有識者と意見交換を行い、鳥取市における新たな産業育成を目指します。



「もったいない学会」公開講演会in鳥取

概要 「もったいない学会」鳥取支部

「石油ピーク」が迫っています。
「石油ピーク」は「農業ピーク」、「現代文明ピーク」でもありません。

これからの基本は「脱石油」、「脱消費」、「無駄をしない」ことであり、もったいない精神の「脱消費社会」を目指す意味から「もったいない学会」が2006年8月に設立されました。

鳥取支部は2007年3月に立ち上げ、設立記念の公開講演会を開催しました。鳥取県が脱消費社会を標榜して、我が国の先頭を走り始めるまたとない機会であり、鳥取県が「脱消費社会」に向けた地域の自立を目指して、新産業創出や大学発ベンチャーの起業によって地域活性化に繋がりたいと考えています。

・ホームページのURL <http://www.mottainaisociety.org/>
<http://www.ecowind.jp/>（鳥取支部）



キャンパスの樹木について （三浦団地） - 岩倉のヒマラヤスギ -

「県の松」と並んで5本のヒマラヤ杉があります。この木は、旧教育学部において、当時学園風景のシンボルとなっていました。地域学部の玄関ポーチが小型に造られていることから、これをカバーして大きさを保つために植栽されました。旧教育学部は通称岩倉地区と呼ばれていたため「岩倉のヒマラヤスギ」と命名されました。（環境マップP56）



きみもなろう「砂漠博士」 - 砂漠に共通する特徴とは何？ -

基本的には人間が住むことが出来ない非常に乾燥している土地です。世界の乾燥地はその乾燥の程度によって極乾燥地・乾燥地・半乾燥地・乾性半湿潤地の4つに分けられています。



乾燥地研究センターの実験施設
全天候型乾燥地土壌浸食動態三次元解析システム
乾燥地の土壌劣化の原因となる表土浸食防止を目的とする研究に用います。乾燥地土壌の浸食動態を三次元的に解析します。

鳥取県における循環型地域づくりをめざして

概要 地域学部 地域環境学科

最近、環境に配慮した循環型社会の構築の必要性をよく耳にします。これは、次世代に負の遺産を残さないよう現在の環境を維持しつつ、しかも、人間生活をより快適なものにすることを指すものです。

鳥取大学は地域の大学として、社会貢献をその使命の一つとしています。また、鳥取県は環境立県を標榜し、その実現に向けて様々な努力をしています。鳥取大学 地域学部 地域環境学科と鳥取県 生活環境部 衛生環境研究所は、これらの機関の中でも、特に環境や循環型社会について積極的に研究を進めています。

本シンポジウムでは、わたしたちの住んでいる鳥取県での環境型社会をどのように構築したらいいのか？それにはどのような理解が必要なのか？という視点に立ち、地域の素材を活かした資源利用と環境修復について話題を提供しています。

また、本シンポジウムに併せて学生による地域環境調査実習の発表会を実施しました。



農村との交流活動による地域活性化支援

概要 農学部 生物資源環境学科 フードシステム科学コース

高齢化や過疎化の進行している中山間地域の農村では、耕作放棄地の増加や地域社会の維持が困難になる等の問題に直面しています。これらの問題の解決には、地域住民の活動を中心とした地域の活性化が不可欠です。

私たちは、2002年度から鳥取県琴浦町三本杉地区の農家婦人グループと、農作業を中心とした農村交流活動を行い、地域活性化のお手伝いをしてきました。遊休農地を利用した餅米生産では、グループの皆さんと学生が、昔ながらの手植えによる田植えや、稲刈り、はさかけを行います。機械に頼らない農作業は、決して楽なものではありませんが、作業の合間や終了後の食事の時間は、様々な話題がとびかう充実した交流の場となっています。

このように、私たちの活動は地域活性化のお手伝いというよりも、地元の好意により学生に農業体験の場を与えていただいていると言った方がふさわしいのかもしれません。しかし、「若者が山間部の農村に大勢来てくれることが元気につながる」と、毎回あたたかく迎えていただいております。これまでの交流事業等の実績が評価され、婦人グループが申請した県の支援事業が採択されました。私たちは、こうした地道な活動が地域の活性化として花開くように、今後とも交流活動に協力していきたいと思います。



乾いた大地 砂漠 - 人と自然 水がほしい! 緑がほしい!

概要 乾燥地研究センター

世界の乾燥地は、地表面積の40%以上を占め、そこには世界人口の3分の1にあたる20億人近くが暮らしています。乾燥地の人と自然について、その成り立ちや不思議を知ってもらい、なぜ乾燥地のような厳しい環境の中で人や自然の営みが成り立っているのかを解説するとともに、砂漠化の防止や乾燥地での生活改善についての研究成果を紹介しました。



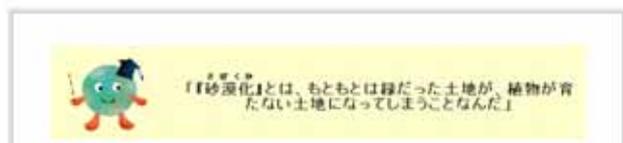
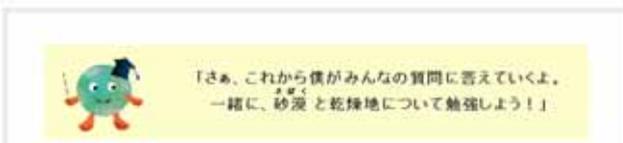
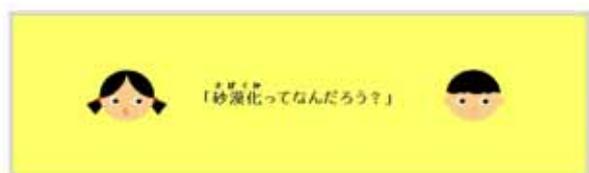
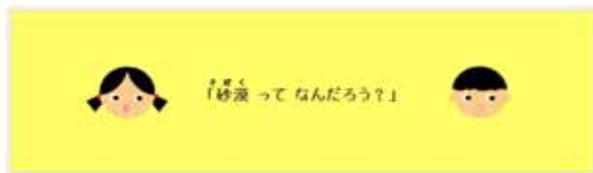
きみもなろう「砂漠博士」

概要 乾燥地研究センター

日本には砂漠はありません。しかし「砂漠化」の問題は日本人にとっても無関心ではいられない、地球規模の環境問題です。乾燥地研究センターでは砂漠や砂漠化に対する理解を深めてもらうために、毎年、小学生5・6年生を対象に「君もなろう砂漠博士」というイベントをおこなっています。

また、乾燥地研究センターのホームページにおいて、砂漠と乾燥地について子供向けに紹介しています。

・ホームページのURL <http://www.alrc.tottori-u.ac.jp/sabaku-index.htm>



キャンパスの樹木について (三浦団地) - 五本松 -

統合移転を記念して、地元湖山町から寄贈されました。当時、砂丘地に育った大樹が本当に移植できるかどうか、疑問視する向きもありましたが、地元の熱意と大学の持つ技術が相まって見事に成功しました。黒松の下には、クマザサが根じめとして植えられ、松・竹・梅からなる記念庭園となっています。(現在は記念庭園に4本が移植されています)(環境マップP56)



キャンパスの樹木について (米子団地) - 菩提樹 -

医学部正門横に3本の菩提樹があります。昭和38年に本学何川涼教授がドイツに客員教授として留学した際に、構内にドイツの菩提樹と同じ木で並木道を作りたいと考え、幾度と種子を植えましたが、芽が出なかったため、農学部で苗木まで育てて、現在地に移植されました。(環境マップP57)



社会貢献活動

取組内容		学部等	学科等	担当教員
地域貢献支援事業：「とっとり県民の暮らしを豊かに」をメインテーマに「ゴミ減量化実施プロジェクト」等をサブテーマとして実施		地域貢献推進室		
一般公開：乾燥地研究センターの一般公開（年2回） 乾燥地学術標本展示室（ミニ砂漠博物館）の休日公開		乾燥地研究センター		
「砂漠と砂漠化に関する国際年」東京・鳥取イベント：乾燥地科学と砂漠化対処に関する国際会議等		乾燥地研究センター		
鳥取大学キャンパス・イノベーションセンター・イブニングセミナー：世界の砂漠から		乾燥地研究センター		
公開セミナー	閉鎖性水域研究プロジェクト公開セミナー	閉鎖性水域研究プロジェクト		
	世界の砂漠から 草原と遊牧の国モンゴルと虹の国南アフリカ	乾燥地研究センター		
産官学連携フェスティバル	地域環境	地域学部	地域環境学科	中野 惠文 田村 純一
	ミネラルバランスによるナチュラルミネラルウォーターの水質評価	医学部	医学科	祝部 大輔
	リサイクル分野	医学部	保健学科	田中 俊行
	減農薬技術	工学部	電気電子工学科	西村 亮
	カニ殻の成分であるキチン・キトサン	工学部 生命機能研究支援センター	物質工学科 機器分析分野	齋本 博之 森本 稔
サイエンスアカデミー	海の幸は二度おいしい～水産廃棄物から機能性食品をとりだす～	地域学部	地域環境学科	田村 純一
	アルミニウムはアルツハイマー病の危険因子であるか	大学院医学系研究科	機能再生医科学専攻	飯塚 舜介
	鳥取砂丘の環境保全	乾燥地研究センター	緑化保全部門	山中 典和
研究発表会等	地域環境調査実習発表会	地域学部	地域環境学科	全教員
	資源の有効利用に関する研究発表会	工学部	土木工学科	井上 正一 吉野 公保 黒田 保
公開講座：古いパソコンをサーバーとして活かそう		地域学部	地域環境学科	安藤 由和
出前講座：千代川と鳥取砂丘の永～くて深～い関係 その秘密に迫る		地域学部	地域環境学科	小玉 芳敬
地域学セミナー：鳥取の戦略的地域振興～水産系廃棄物を資源化する～		地域学部	地域環境学科	田村 純一
鳥取大学ビジネス交流会：海の幸は二度おいしい～水産加工廃棄物の資源化～、水産加工廃棄物の資源化と高付加価値化について講演		地域学部	地域環境学科	田村 純一
鳥取大学振興協力会：鳥取の戦略的地域振興～水産加工廃棄物の高付加価値化～について講演		地域学部	地域環境学科	田村 純一
夢・化学-21：鳥取大学一日化学実験教室～カニ殻の成分と20世紀梨を利用した実験		工学部	物質工学科	齋本 博之
山陰中核地域ものづくりフェア2006：規格外のため廃棄される20世紀梨の利用		工学部	物質工学科	齋本 博之
産官学連携推進会議：キチン・キトサンおよび規格外のため廃棄される20世紀梨の利用		工学部	物質工学科	齋本 博之
出張講義：カニ殻の成分と規格外の20世紀梨を利用した実験・解説（鳥取県立鳥取中央育英高等学校、鳥取市立国府中学校）		工学部	物質工学科	齋本 博之
アグリビジネス創出フェア 農林水産省主催	キトサンを利用した新規生体接着剤の開発	農学部	獣医学科	南 三朗 岡本 宗裕 岡村 康彦 柄 武志
	鳥取大学方式による孵卵・孵化と育雛技術の確立	農学部	獣医学科	齋藤 俊之
真庭市環境学習推進事業：「蒜山の森」における森林教室		農学部	ファームサイエンスセンター	佐野 淳之
日本環境教育学会第18回（鳥取）プレミートング：鳥取で環境教育を語る		生涯教育総合センター		大谷 直史

学外委員会等への参加

取組内容	学部等	学科等	担当教員
鳥取県環境審議会	地域学部	地域環境学科	鶴崎 展巨・矢野 孝雄
	医学部	保健学科	田中 俊行
	工学部	土木工学科	檜谷 治
	工学部	社会開発システム工学科	増田 貴則
	農学部	生物資源環境学科	作野 えみ
鳥取砂丘景観保全協議会	農学部	フィールドサイエンス	日置 佳之
	地域学部	地域環境学科	小玉 芳敬・永松 大
	農学部	生物資源環境学科	岩崎 正美・奥村 武信
自然生態系の再生による水質浄化研究会	乾燥地研究センター	乾地環境部門	篠田 雅人
	工学部	土木工学科	檜谷 治・松原 雄平
	工学部	生物応用工学科	嶋尾 正行
	工学部	社会開発システム工学科	増田 貴則
鳥取県環境影響評価審査会	農学部	生物資源環境学科	山田 智
	地域学部	地域環境学科	矢野 孝雄・永松 大
	医学部	環境予防医学	尾崎 米厚
	工学部	土木工学科	檜谷 治
	工学部	社会開発システム工学科	増田 貴則
千代川の今後を考える学識懇談会	農学部	フィールドサイエンス	日置 佳之
	地域学部	地域環境学科	矢野 孝雄
大橋川改修に関する環境検討委員会	工学部	土木工学科	矢島 啓
	地域学部	地域環境学科	岡田 昭明・鶴崎 展巨
(財)鳥取県環境管理事業センターアドバイザー	工学部	社会開発システム工学科	細井 由彦
	地域学部	地域環境学科	矢野 孝雄
中国地方ダム管理フォローアップ委員会	工学部	土木工学科	檜谷 治
	地域学部	地域環境学科	鶴崎 展巨
天神川河川整備懇談会	地域学部	地域環境学科	鶴崎 展巨
米子市水道事業審議会	工学部	土木工学科	檜谷 治
鳥取市環境保全審議会	地域学部	地域環境学科	矢野 孝雄
鳥取県外来種検討委員会	地域学部	地域環境学科	中野 恵文
環境省絶滅の恐れのある野生生物の選定・評価検討会	地域学部	地域環境学科	鶴崎 展巨・永松 大
松山市希少動植物保護検討委員会	地域学部	地域環境学科	鶴崎 展巨
鍵掛道路環境影響委員会	地域学部	地域環境学科	鶴崎 展巨
笠原水環境影響評価委員会	地域学部	地域環境学科	小玉 芳敬
鳥取県公害審査委員会	医学部	環境予防医学	尾崎 米厚
鳥取県防除連絡協議会	大学院医学系研究科	機能再生医科学専攻	飯塚 舜介
米子市環境審議会	医学部	医学科	岡本 幹三
	大学院医学系研究科	機能再生医科学専攻	飯塚 舜介
米子市廃棄物減量等推進審議会	医学部	医学科	岡本 幹三
境港市環境審議会	医学部	医学科	岸本 拓治
鳥取県河川委員会	工学部	土木工学科	檜谷 治
鳥取県溶融スラグ利用促進会議	工学部	土木工学科	井上 正一
	工学部	社会開発システム工学科	細井 由彦
コンクリート用資源の活用委員会	工学部	土木工学科	井上 正一
鳥取市水道事業審議会	工学部	土木工学科	矢島 啓
	工学部	社会開発システム工学科	増田 貴則
海と渚環境美化推進機構研究調査員	工学部	物質工学科	岡野 多門
環日本海環境協力センター研究調査員	工学部	物質工学科	岡野 多門
鳥取市下水道審議会	工学部	社会開発システム工学科	細井 由彦
米子市下水道審議会	工学部	社会開発システム工学科	細井 由彦
鳥取県廃棄物処理施設許可申請に係る専門的知識を有する者の意見会	工学部	社会開発システム工学科	増田 貴則
土地分類調査・水調査の在り方に関する検討会	工学部	社会開発システム工学科	増田 貴則
殿ダム環境委員会	農学部	生物資源環境学科	奥村 武信
林野庁東中国山地緑の回廊設定委員会	農学部	フィールドサイエンス	日置 佳之
北東アジアにおける砂漠化・干ばつ対策検討委員会	乾燥地研究センター	乾地環境部門	篠田 雅人
鳥取砂丘景観保全調査研究会	乾燥地研究センター	乾地環境部門	篠田 雅人
鳥取県農業気象協議会委員	乾燥地研究センター	乾地環境部門	木村 玲二
公園・緑化技術会議分科会	乾燥地研究センター	生物生産部門	恒川 篤史
環境情報・環境統計の整備・利用のあり方検討会	乾燥地研究センター	生物生産部門	恒川 篤史
砂漠化対処のための技術移転検討委員会	乾燥地研究センター	生物生産部門	安 萍

環境コミュニケーション

鳥取大学におけるごみの分別等について、昨年に引き続き構内の清掃管理業務を委託している株式会社（鳥取地区）、中国大建管財株（米子地区）の作業員の方々に現状をお聞きしました。

吸い殻のポイ捨て、講義室内でのごみの放置、及び不十分な分別といった、昨年度と比べて改善はあまりみえないとの意見がありました。

「環境報告書2005」「環境手帳」の配布をし、ごみの分別等について改善に努めていますが、一部混在が見受けられるため、各部署に改善を求める文書の送付、及び各ごみ置場については、分別表を張ることとしました。



ごみの分別表

構内事業者の鳥取大学生生活共同組合にも意見をお聞きしました。

食堂前の広場のごみ箱については、サークル棟や各建物からごみが持ち込まれ、毎朝大量のごみがあるとの意見がありました。

また、今後リサイクルステーションの充実、カップの自動販売機をデポジット制（購入時の料金を10円値上げし、カップ返却時に10円返却）にし、ごみの排出を減らす取組等、環境に配慮した取組を推進していきたいという意見もありました。

食堂前の広場については、学生が多く集う場所であり、綺麗にしたいと考え、現在のごみ箱の形状の変更、及びサークル棟のごみ集積場の検討を進めています。



キャンパスの樹木について （三浦団地） - 同窓のシイ・啓成のクス -

旧吉方農学部同窓会記念会館の玄関前に植えられていたことから「同窓のシイ」と命名されました。シイノキと覇を競うようにクスノキが茂っています。このクスノキは、旧吉方農学部の学寮（啓成寮）横のクスノキ並木の中から移植したもので、啓成寮に暮らした幾多の先輩の寮雨の洗礼を受けて成長したもので、ここで巣立った卒業生にとっては忘れることの出来ない木であり「啓成のクス」と命名されました。またこれらの樹木に囲まれて、鳥取高等農学校初代校長山田玄太郎先生の胸像があります。（環境マップP56）



医学部附属病院においては、全国の81施設とともに「特定機能病院」に指定され、充実した医療機器や設備を備え、高度先進医療を実践する基幹病院として位置づけられています。

病院機能評価

病院機能向上のため「日本病院機能評価機構」による病院機能評価の更新審査を受審し、2005年1月に認定基準に達成していると認められ認定証の交付を受けています。

今後も、より一層の機能向上を進め、患者様中心の、安全で高度な医療を提供し、地域住民の方々が安心して暮らせる医療環境づくりにまい進していきます。



環境に関する取組

「健康増進法」の制定により「受動喫煙の防止」について規定されたことに伴い、種々の病気に苦しむ患者様の健康回復を使命とする病院においては、喫煙の健康への悪影響を考慮し、患者様の理想的療養環境整備を提供するため、敷地内禁煙を2007年4月1日から実施しています。

敷地内禁煙とは、外来のみならず入院患者様も原則的に完全禁煙で、付き添いや面会の方など全ての方が病院敷地内は禁煙です。禁煙が難しい方には対応する窓口を設置し、支援しています。

**平成19年4月1日より
敷地内全面禁煙
となります。**

平成15年5月から「健康増進法」が施行され、受動喫煙の防止が規定されている状況から、本院では建物内禁煙（屋外に喫煙場所を設置）の方針で臨んでおりましたが、この度医療機関として最適な療養環境を提供する立場から、敷地内禁煙を実施する運びとなりました。

患者様や来院される方々の健康を第一に考えた措置ですので、皆様のご理解とご協力をお願い致します。

平成19年 2月 5日
医学部附属病院長

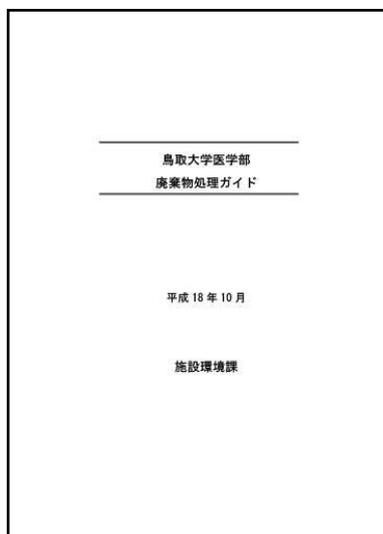


院内掲示

医療廃棄物

医学部附属病院から排出される医療廃棄物の適正な処理に関し必要な事項を「鳥取大学医学部医療廃棄物等処理要項（鳥取大学医学部規則第7号）」において定めています。

「鳥取大学医学部廃棄物処理ガイド」を作成し、医療廃棄物の分別方法、集積場等情報を記載し、教職員に周知を図っています。また、廃棄物処理量・処理費用を記載し、廃棄物の減量化を啓発しています。



廃棄物処理ガイド



医療廃棄物梱包容器



飛鳥の森

医学部保健学科の田中 俊行准教授は、「廃食用油を用いたバイオディーゼル発電」に関する研究を実施し、研究で得られた電力については、体育館の照明用電源として利用しています。

憩いの広場である「飛鳥の森」において、2006年12月7日～2007年1月5日の期間「医学部ルミナリエ」と題してイルミネーションを実施するにあたり、イルミネーションの電源として、環境に優しい上記研究による電力を利用しました。

イルミネーションの光は、附属病院の病室からも見ることができ、患者様その他の関係者の方々も気軽にご覧になることができるため、今回同広場に取り付け、低消費電力・長寿命・故障しにくい・有害物質を使用していない発光ダイオード（LED）を3,600個使用しました。

また、廃食用油については、附属病院の調理室で使用された廃食用油を使用しています。



個人情報保護

医学部附属病院では、数多くの患者様の個人情報を日々取り扱い、そしてそれを保有しています。特に大学病院という特性上、診療のみならず医学教育及び研究を行うため、一般の病院より多くの情報を必要とし、また使用しています。患者様の情報の保護について「鳥取大学医学部附属病院の保有する個人情報の適切な管理のための措置に関する規程（鳥取大学医学部附属病院規則第2号）」等において定めています。また、患者様の氏名が他の方に見えないようにしたり、コンピュータで診療情報を扱う場合、その情報の管理を一層厳重に行うよう徹底を図るなど、様々な取組を行っています。

一方で法律を守るあまりに行き過ぎた対応をして、病院で一番大切な患者様の安全が損なわれることがあってはなりません。患者様の安全と個人情報保護とのバランスが大切との考えに基づき行っています。

環境に関する教育・研究

- ❑理科、社会、家庭科、卒業研究等で環境に関する教育を実施しています。（附属中学校）
- ❑科学部で湖山池水質検査を実施しています。（附属中学校）
- ❑理科、社会、国語、家庭科等で環境に関する教育を実施しています。（附属小学校）
- ❑総合的な学習で湖山池の環境保全について調査・研究を実施しています。（附属小学校）
- ❑ペットボトル等を集める「あるあるコーナー」を設置して、資源を再利用化し、図画工作等に使用しています。（附属幼稚園）
- ❑使用済ろうそくを回収し、エッグキャンドルを作成して、資源を再利用化しています。（附属養護学校）



資源の再利用



エッグキャンドルの作成

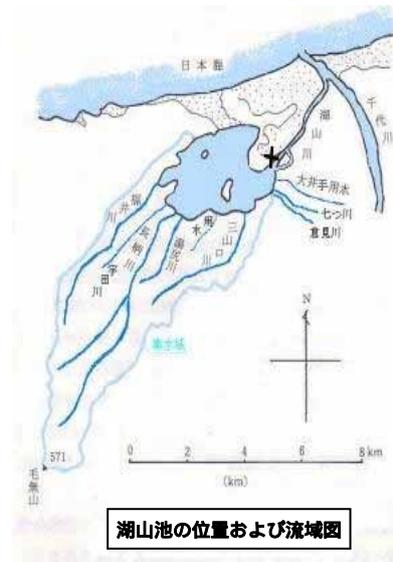
湖山池の水質検査

概要 附属中学校科学部

本校生徒達は、四季折々の姿を見せる湖山池を階下に見下ろしながら日々生活を送っています。この湖山池は、「池」としては全国最大であり、周囲にはレクリエーション施設が点在し市民の憩いの場となっています。その一方で、家庭排水の流入や、灌漑用水への利用のために水門によって海水の流入を堰き止めたことによる水質の悪化が大きな問題となっています。

このような実態をふまえ、科学部では身近な地域素材としての湖山池を取り上げ、水質検査への取組を通して身近な環境問題について考えています。

年月日	天気	温度	COD	NH ₄	NO ₂	NO ₃	PO ₄	観察者
2006/6/14	晴れ	24	8	0.2	0	0	0	
2006/6/20	晴れ	28	8	0.5	0.005	0.05	0.2	湖山・谷水
2006/6/27	晴れ	30	6	0.25	0	0	0.05	八木・縄田・岩永
2006/7/7	晴れ	25	7	0.3	0.01	0.5	0.05	廣谷・矢部校長
2006/7/21	曇り	25	6	0.25	0	0.2	0.02	桑田・高田・迫田・中村・有田
2007/1/9	曇り	9	6	0.25	0	0.5	0.02	ヒ口谿
2007/1/10	曇り	8	8	0.25	0	0	0.02	有田・牧島
2007/1/19	曇り	9	7	0.25	0	0.2	0.02	河本



湖山池の位置および流域図

水質

- COD 川としては、0~5 mg/Lが望ましい。従って、少し汚れていると判断される。
 - NH₄ 0.5 ng/L以上は少し多い。生活排水、田畑からの肥料分などの流入が考えられる。
 - NO₂ ほとんど検出されていない。
 - NO₃ この一帯で、工場排水がないことを示している。
 - PO₄ 少し多いと判断される。生活排水や肥料の流入が考えられる。
- 夏と冬の比較では、NH₄以外は、季節変化を認められない。

環境に関する取組

- 鳥取市児童生徒科学作品展へ出展しました。（附属中学校）
- 執行部、福祉委員会による緑の羽根活動を実施しています。（附属中学校）
- 「立つ鳥運動」として、卒業時に校内の環境整備を実施しています。（附属中学校）
- とっとり環境ネットワークに参加しています。（附属小学校）
- ペットボトルのキャップを回収し、米子市の㈱エコマ商事の工場に送りエコウッドとして、リサイクルされています。（附属小学校）
- 児童、生徒、保護者、職員による地域の清掃活動を実施しています。（附属中・小・養護学校・幼稚園）
- 児童、生徒、保護者、職員によるプランター等の栽培活動を実施しています。（附属中・小・養護学校・幼稚園）
- 校庭緑化で農学部に協力しています。（附属中・小・養護学校）
- 福祉・環境委員会による花壇の整備をしています。（附属中・養護学校）



清掃活動



栽培活動



教育環境マネジメント

附属4学校園及び附属学校部事務の美化、クリーン・アップ活動を展開するとともに、年間を通じた廃棄物の計量の取組を実施しました。

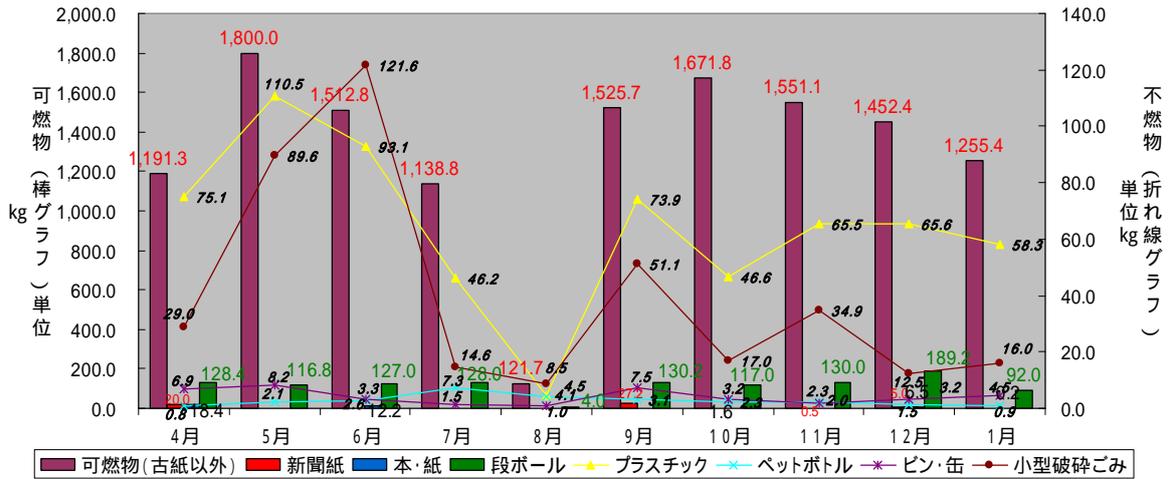
各附属学校園及び事務が、附属学校園及び大学の環境美化整備に何ができるか、何をすべきかを主体的に考え、取り組みました。



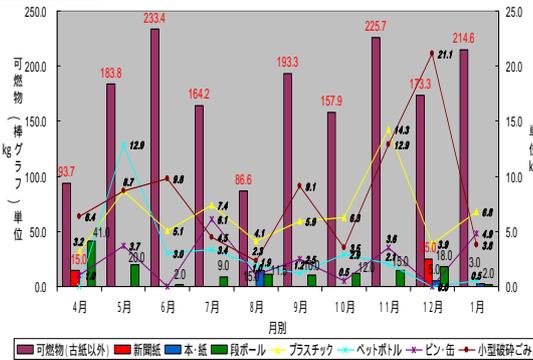
児童・生徒・保護者1,000名によるキャンパス・クリーン活動

附属学校の取組

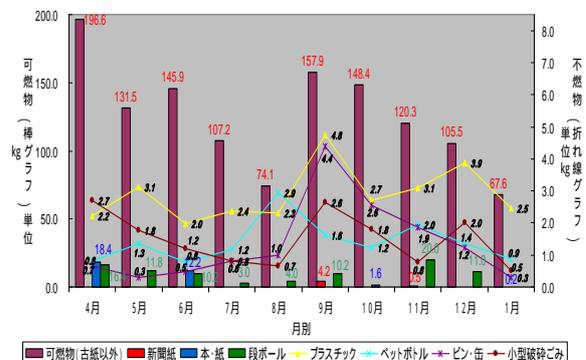
附属学校全体



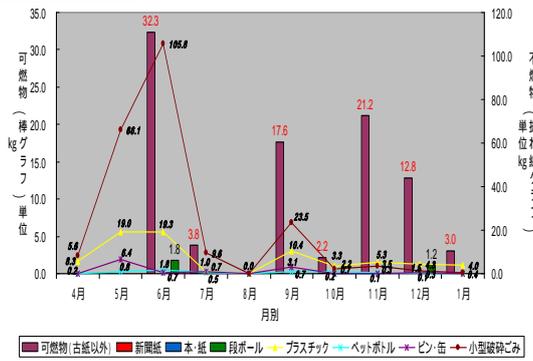
附属中学校



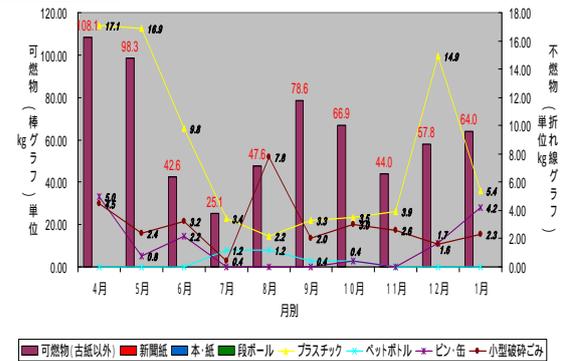
附属小学校



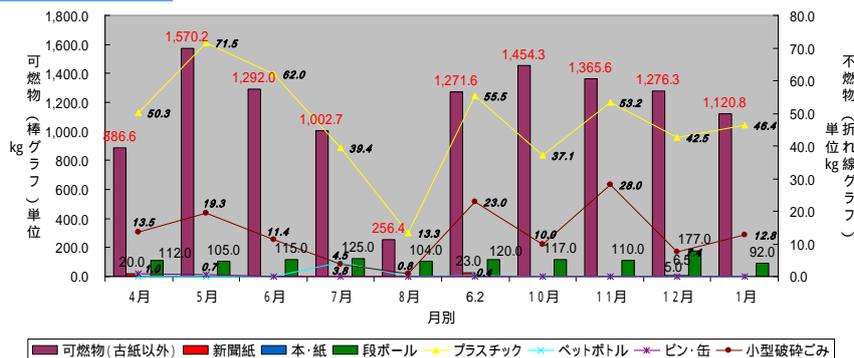
附属養護学校



附属幼稚園



附属学校事務室



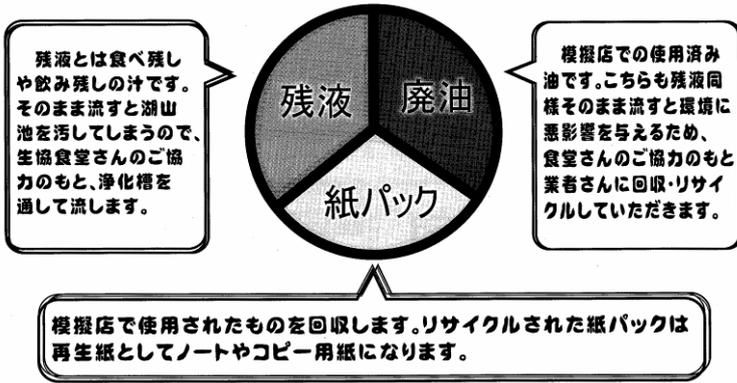
廃棄物計量調査一覧表

鳥取大学風紋祭の取組

鳥取大学の最大のイベントである第42回鳥取大学風紋祭が10月12日～15日に開催されました。学生の企画で実践される風紋祭では、環境にやさしいECO学祭を学生自らが考え実施しました。

ECO学祭の取組

- 風紋祭でのごみを少しでも減らすため、紙パック・残液・廃油の分別回収を行いました。
- 飲食模擬店から大量に出る容器ごみ削減のため、環境に及ぼす負担の少ないエコトレ（非木材紙トレ）を賛同する模擬店で使用しました。
- 森林は地球温暖化を防止する大きな役割も担っています。そんな森林を守るために自分達から出来ることからということで、間伐材割り箸を取り入れました。



エコ学祭において、全てのごみ（会場内・模擬店排出）を再分別し、計量しました。

2004年度の実績

ごみの種類	10/15	10/16	10/17	10/18	合計
可燃	15.4	232.4	325.1	400.1	973.0 (kg)
白トレ	0	27	28	18	73 (袋)
ペットボトル	2	19	15	32	70 (袋)
プラスチック	5	33	60	47	145 (袋)
小型破砕	1.4	6.4	15.6	15.9	39.3 (kg)
ビン・缶	3	22	29	23	77 (袋)
割り箸	0.0	8.5	25.7	12.6	46.8 (kg)
施つが ぶ ンバ	0	3	55	5	63 (本)

(袋)は、45Lのポリ袋一杯分です。
2004年当時は、ガスボンベの燃焼はなされていませんでした。
割り箸は、全て洗浄のち製紙会社へ持っていきましました。

2005年度の実績

ごみの種類	10/13	10/14	10/15	10/16	合計
可燃	9.0	311.6	600.5	694.1	1,615.2 (kg)
白トレ	0	17	14	25	56 (袋)
エコトレ	1	12	17	36	66 (袋)
ペットボトル	0	22	15	28	65 (袋)
プラスチック	3	34	52	104	193 (袋)
小型破砕	2.5	1.0	3.2	26.9	33.6 (kg)
ビン・缶	3	12	17	33	65 (袋)

(袋)は、45Lのポリ袋一杯分です。
エコトレは、全て埋め立てで堆肥化処理をしました。
割り箸は、全て洗浄のち製紙会社へ持っていきましました。

2006年度の実績

ごみの種類	10/12	10/13	10/14	10/15	合計
可燃	6.9	242.5	273.5	597.8	1,120.7 (kg)
白トレ	1.2	4.8	9.6	32.0	47.6 (kg)
エコトレ	0	0	75.0	110.0	185.0 (kg)
ペットボトル	1.5	15.0	24.0	48.0	88.5 (kg)
プラスチック	2.0	56.0	88.0	164.0	310.0 (kg)
小型破砕	0	3.0	4.6	33.8	41.4 (kg)
ビン・缶	7.0	49.0	105.0	140.0	301.0 (kg)
割り箸	0	10.2	18.1	19.8	48.1 (kg)
串	0	4.0	4.9	0.6	9.5 (kg)
ダンボール	0	176.0	0	228.0	404.0 (kg)

エコトレは、全て埋め立てで堆肥化処理をしました。
割り箸は、全て洗浄のち製紙会社へ持っていきましました。



ごみ分別の取組

エコトレとは???

—エコトレとは、土に埋めると土の中にある微生物によって分解される非木材紙という材料で出来ているので、環境にやさしいトレです。



このように環境に与える負担が少なく済む画期的なトレです。使用後のトレは回収し、学内に埋めます。

エコトレ

風紋祭でも割り箸を回収してリサイクルします!!!

☆割り箸3膳→葉書1枚
☆割り箸150膳→ティッシュペーパー1箱

回収にご協力をお願いします

間伐材割り箸

学生サークルの取組

環境セミナー

●環境ゼミ

講義形式・ディスカッション・ワークショップ等、様々な形式で環境に関する勉強会を実施しています。風紋祭においても「環境ゼミin風紋祭」を行い、鳥取大学・鳥取環境大学の環境系サークルが一同に介し、鳥取の環境や街づくりについて意見交換を実施しました。

●構内清掃

週1回「Ecoネットワーク」と共同で構内の清掃を実施しています。

●ゆずり派でいこう

卒業生の「要らないが、捨てるにはもったいない」家具や家電製品、その他大きなものから小さなものまで、引き受け、それらを必要とする新入生にゆずっています。「ゆずり派」とは、皆様の「もったいない」思いをお受けする活動です。

●畑作

乾燥地研究センター内で砂丘畑の畑作と研究を実施しています。乾燥地での耕法を学習・研究し、乾燥地域の緑化に対して理解を深めています。



環境ゼミ



構内清掃



ゆずり派でいこう



畑作

Ecoネットワーク

●勉強会

環境問題（水質汚染等）を中心に勉強会を実施しています。

●構内清掃

週1回「環境セミナー」と共同で構内の清掃を実施しています。

●割り箸回収

生協で使用された割り箸を回収して、リサイクルの手伝いをしています。

自動車部

エコドライブの知識、技術を習得するため、全日本学生自動車連盟が企画した「第一回全日本学生対抗チーム・マイナス6%エコドライブコンテスト」で自動車部が優勝しました。

このコンテストは「チーム・マイナス6%」が提案する6つのアクションのうちの一つ「自動車の使い方減らそう（エコドライブをしよう/ふんわりアクセル「eスタート」）」の普及・啓発を目的として開催され、学生ドライバーが、ポイント制で消費燃料の少なさを競うというものです。

自動車部では運転技術の向上と自動車整備技術の習得を目標として活動しています。

活動内容は、主にジムカーナ競技に参加したり、サーキット走行をすることで運転技術を磨いています。



鳥取大学生生活協同組合

鳥取大学生生活協同組合は、学生・教職員の勉学・研究・食生活を支え、魅力ある鳥取大学づくりに貢献することを目的に設立されました。
鳥取・米子地区において、売店、食堂の運営等を行っています。

レジ袋削減の取組

2006年度に鳥取大学生生活協同組合は、**レジ袋の削減を重点課題として取り組みました。**

アンケート調査

レジ袋有料化の是非について、アンケート調査を実施しました。

(2006年11月 講義室、生協ショップ前で実施 回収数245)

レジ袋削減のために有料化
賛成 71% 反対 29%
有料化した場合の価格
5円 64% 10円 23% 15円 7% その他 6%

レジ袋のセルフ化

レジでレジ袋に入れることを中止し、利用者が自分で袋に入れるようにしました。

2006年10月23日～27日

	10月23日	10月24日	10月25日	10月26日	10月27日	合計
利用者数	2,372	2,514	2,572	2,350	2,284	12,092
レジ袋枚数	1,538	1,730	1,794	1,726	1,465	8,253
使用率	64.8%	68.8%	69.8%	73.4%	64.1%	68.3%

2007年1月15日～19日

	1月15日	1月16日	1月17日	1月18日	1月19日	合計
利用者数	2,382	2,348	2,293	2,156	1,804	10,983
レジ袋枚数	1,136	1,333	1,188	927	919	5,503
使用率	47.7%	56.8%	51.8%	43.0%	50.9%	50.1%

26.6%の削減。これは**年間で8万5千枚の削減**になります。

(ガソリン：255 L、二酸化炭素：425 kgの削減に相当)



レジではこのかごに入れます



レジの後ろの台で自分で袋に入れます。袋が不要な方は、自分のかばんに入れたり、そのままお持ちいただくようになりました。



お弁当もそのまま入る【マイバック】を用意しました。価格は200円です。購入された方にはスタンプカードを利用していただき、マイバックを20回利用していただくと200円をお返ししています。

レジ袋セルフ化後、再アンケート調査

レジ袋セルフ化の2ヶ月経過後、ショップ利用者にアンケート調査を実施しました。

(2007年2月実施 回収数560)

レジ袋がセルフ化されて
便利になった 8% 特に不便は感じない 72% 不便になった 20%
レジ袋の使用量を減らすためにはどんな方法が有効と見ますか
マイバックの推進 44% レジ袋有料化 32% セルフ化のみ 24%

レジ袋有料化

不便になったという声も多いため、改善に努めます。その上で2007年度にレジ袋有料化実施を計画しています。

構内事業者の取組

リサイクルの取組

■オリジナル弁当容器のリサイクル

回収した「弁当容器」は、専用の工場（㈱ヨコタ京都）に送られ、再生原料ペレットに加工されて、同じ弁当容器として再生されています。

■トナー・インクカートリッジのリサイクル

使用済みのトナー・インクカートリッジの回収箱を設置しています。再処理メーカー（アシスト㈱）において、再製品化されています。

■割り箸のリサイクル

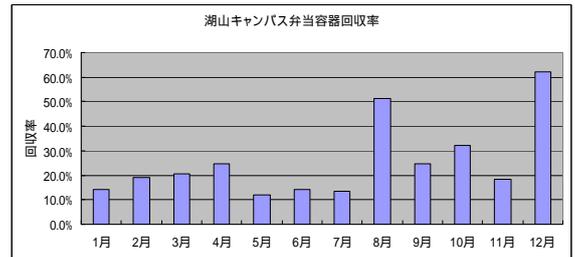
食堂で使用された間伐材割り箸は、本学の学生環境サークル「Ecoネットワーク」が回収し、鳥取県庁舎に持参し、米子市の王子製紙㈱の工場へ送られ、リサイクルされています。

■廃油のリサイクル

食堂から出る廃油は、年間で約2,400L。専門業者（山陽リプロ㈱）に回収を委託し、鳥の飼料や石鹼にリサイクルされています。

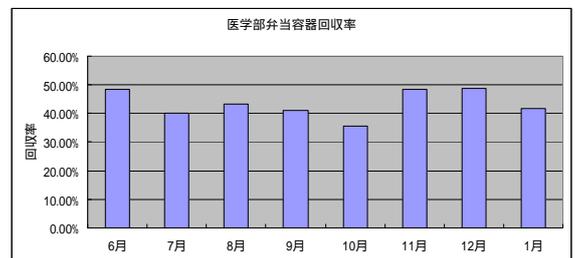
■ダンボールのリサイクル

生協が排出するダンボールは、年間約11t。専門業者（有玉川慶洙商店）に回収を委託し、トイレトーパー等にリサイクルされています。



1年間で12,551個の弁当容器を回収し、リサイクルしました。1年間の回収率は25.2%でした。回収BOXが学生会館周辺2箇所しかなく、回収BOXを増やすことが求められています。

鳥取キャンパス回収率 2005年 15.5% 2006年 25.2%



1年間で3,407個の弁当容器を回収し、リサイクルしました。生命科学科棟と医学部ショップに回収BOXを置いています。

生協内部での取組

■全国大学生協連主催「環境セミナー」（2006年10月14-15日、仙台）への参加

全国のキャンパスで、大学、生協、環境サークルが取り組んでいる環境に対する様々な活動を学びました。

■コピー用紙の両面印刷の徹底

コピー・FAX・プリント用紙は、両面印刷を基本としています。

恵仁会

恵仁会は、鳥取大学医学部における医学の研究を奨励助成し、医学の振興と社会文化の向上に寄与することを目的に設立された財団法人です。

米子地区において、売店、喫茶の運営等を行っています。

リサイクルの取組

■割り箸のリサイクル

食堂で使用された割り箸は、米子市の王子製紙㈱の工場へ毎日送り、リサイクルされています。

■廃油のリサイクル

喫茶等から出る廃油は年間で約810L。専門業者（有環境アスリート）に回収を委託し、家畜の飼料にリサイクルされています。

■ダンボールのリサイクル

専門業者（有海老田金属）に回収を委託し、荷物発送用に利用されています。

キャンパスの樹木について（三浦団地）
- 希望の月桂樹 -

大学に入って先ず目を向ける掲示板横に大きく成長した月桂樹があります。この木は、旧農学部の正門横にあった親木から枝分けして育てていたもので、統合移転の際に現在地に移植されました。鳥取大学入学を見事果たしたみなさんが、この月桂樹の前を希望に胸ふくらませて欲しいとの願いから「希望の月桂樹」と命名されました。（環境マップP56）



キャンパスの樹木について（米子団地）
- ヒポクラテスの木 -

ギリシャの医聖ヒポクラテスは、コス島に実在する「スズカケノキ（鈴懸の木：プラタナス）」の巨木の下で弟子たちに医学を教えたといわれています。1969年、新潟病院の蒲原副院長がコス島に渡った際にこの木から採取した球状果から9本の苗が育ち、その蒲原株と呼ばれる1号から9号までの苗のうち、8号の株から取り出した株を当時の整形外科学教授であった前山巖教授（名誉教授）が譲り受け植樹されました。（環境マップP57）



地域との関わり

鳥取大学においては、地域の歴史・文化・経済・産業と結びついた特色ある教育研究を展開し、地域の発展に貢献することは、大学の使命の一つであるとの認識に立ち、地域社会との間に強い交流関係を築き、両者の相互・相乗的な活性化を図ることを目指しています。

公開講座・サイエンスアカデミー・地域貢献支援事業・ボランティア等を通して交流を実施しています。また発展途上国等における取組として、国際交流事業団（JICA）を通じた技術協力として、専門家の派遣、研修員の受入れ等を実施しています。



地域貢献支援事業



JICA集団研修修了式

労働安全衛生

労働安全衛生については、職員の安全衛生に関し必要な事項を「鳥取大学安全衛生管理規程（鳥取大学規則第49号）」において定めています。

2006年度においては、労働安全衛生について下記の取組を行いました。

衛生管理者の職場巡視に産業医を加えることにより、学生等に対する保健衛生指導を徹底し、職場巡視の充実を図りました。

有害物質等の取扱い上の注意事項を安全衛生委員会で検討し、安全衛生表示（化学物質等安全データシート）として実験室等に掲示し、安全衛生管理の充実を図りました。

職員の健康の保持増進策の一環として、心の健康への対応を強化するため、管理監督者のためのメンタルヘルスガイドブックを作成することにより、監督者が率先して職場ぐるみで取り組む環境作りを行いました。

併せて、心の病についてプライバシーの保護により相談しやすい体制を整備するため、外部機関と契約し、「鳥取大学こころの電話相談」窓口を設置しました。

各部署等においても、危機管理マニュアルを策定し、教職員に周知しました。

鳥取大学においては、2006年度に休業4日未満の労働災害が54件ありました。

安全衛生目標を定め、労働安全衛生法等を踏まえた安全管理・事故防止に努めていきます。

環境報告書2005において誤りがありましたので、お詫びの上、訂正いたします。

誤：2005年度に労働災害はありませんでした

正：2005年度に休業4日以上労働災害が1件、休業4日未満の労働災害が74件ありました。



職場巡視

化学物質等安全データシート(MSDS)	
鳥取大学 2006年10月	
1. 物質の特定	物質名: 塩化水素 (HCl) 性状: 無色透明の液体
2. 有害性	健康被害: 吸入: 呼吸器を刺激し、肺水腫を誘発する可能性がある。皮膚: 皮膚を刺激し、凍傷を誘発する可能性がある。環境: 水生生物に有害である。
3. 取扱い上の注意事項	取扱い: 換気装置を稼働させて取り扱う。保護具: 作業時は防護服、手袋、ゴーグル、マスクを着用する。
4. 応急処置	吸入: 新鮮な空気を吸わせ、呼吸困難が認められる場合は、速やかに医療機関に搬送する。皮膚: 汚染された衣類を脱ぎ、患部を流水で洗い流す。
5. 消防	消火剤: 水、泡消火剤、粉末消火剤。危険性: 燃焼性: 可燃性。反応性: 酸化剤と反応する。
6. 環境	環境への影響: 水生生物に有害である。廃棄: 中和処理後、排水処理施設で処理する。
7. 輸送	輸送名: 塩化水素。危険性: 腐食性。包装: 密閉容器に包装する。
8. 暴露限界値	TLV: 10 ppm (8時間労働時間平均) 短期暴露限界値: 30 ppm (15分)
9. 物理的・化学的性質	性状: 無色透明の液体。沸点: 100°C。融点: -79°C。比重: 1.48。蒸気圧: 2.5 kPa (20°C)。
10. 安定性・反応性	安定性: 安定。反応性: 酸化剤と反応する。
11. 毒性	急性毒性: 経口: LD50 (ラット) 1000 mg/kg。吸入: LC50 (ラット) 100 ppm (4時間)。
12. 生態毒性	水生生物: 魚類: 48時間LC50 100 mg/L。水生植物: 48時間EC50 100 mg/L。
13. 廃棄	廃棄方法: 中和処理後、排水処理施設で処理する。
14. 法規制	規制: 労働安全衛生法、環境汚染防止法、消防法。
15. 参考資料	資料: 化学物質等安全データシート (MSDS) 編纂委員会編「化学物質等安全データシート」。

化学物質等安全データシート

鳥取大学こころの電話相談
《ごんな症状はありませんか？》

相談したいけど、人に相談するのが怖い
 相談したいけど、時間がないから無理
 相談したいけど、費用がかかるから無理

鳥取大学こころの電話相談
 24時間受付
 匿名相談
 無料相談

鳥取大学の相談スタッフ・心理カウンセラーによる電話カウンセリングをご提供いたします。

※必要に応じて日本全国のカウンセリングセンターで、専門の心理カウンセラーによる電話カウンセリングをご提供いたします。

鳥取大学こころの電話相談

労働力の内訳

職員の採用に関し必要な事項を「鳥取大学職員の採用等に関する規程（鳥取大学規則第38号）」において定めています。また、「高年齢者等の雇用の安定等に関する法律」の規定に基づき、少子高齢化の急速な進展及び年金支給開始年齢の引き上げ等を踏まえ、鳥取大学における高年齢職員の定年後の雇用機会の確保を図るために、「鳥取大学職員の高年齢継続雇用に関する規程（鳥取大学規則第38号）」を定めています。

区 分	人 数	割 合	備 考
常勤職員	1,617	60.0%	
非常勤職員	586	21.7%	日々雇用職員350 時間雇用職員236
派遣・短期雇用職員	494	18.3%	派遣1 短期雇用職員493
計	2,697		

男女別割合

区 分	男 性	割 合	女 性	割 合	計
役員	8	100%	0	0%	8
管理職	104	92.9%	8	7.1%	112
教員	51	87.9%	7	12.1%	58
事務・技術職員	53	98.1%	1	1.9%	54
職員全体	998	61.7%	619	38.3%	1,617

身体障害者又は知的障害者の雇用状況

区 分	人 数
法定雇用障害者の算定の基礎となる労働者の数	1,343
雇用障害者数	24

実雇用率 1.79%

「障害者の雇用の促進等に関する法律」において法定雇用率は2.1%であり、それを下回っています。今後、障害者の雇用の促進及び雇用の継続を図っていきます。

個人情報保護

個人の権利利益を保護するため「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき、大学が保有する個人情報を適正に取り扱うことを定め、個人情報ファイルの適正な管理と公表を行い、開示請求・訂正請求・利用停止請求ができるよう規程を定めています。

- ・「鳥取大学個人情報保護の取扱規則（鳥取大学規則第48号）」
- ・「鳥取大学個人情報の開示及び訂正等の手続きに関する規則（鳥取大学規則第49号）」

キャンパスの樹木について （三浦団地） - 見越の松 -

1966年に、鳥取地区の統合整備が行われ、1973年には、植栽を中心とした総合整備計画が行われました。この黒松は、鳥取市内近傍から見出され現地に移植されました。「稲葉の松」とも良く調和し、大学正門から構内中央を見通す景観向上に寄与しています。
(環境マップP56)



きみもなろう「砂漠博士」 - 鳥取砂丘は砂漠なの？ -

鳥取砂丘は砂漠ではありません。1年間に2,000 mm以上の雨が降りますので乾燥地ではありません。植物が生えないのは砂が動いているからで、砂の動きが止まれば植物が生えてきます。



乾燥地研究センターの実験施設
砂漠化機構解析風洞システム
乾燥地特有の乾燥風条件を再現し、強蒸散条件下の植物に対する乾燥ストレス、塩分ストレスの研究、乾燥条件下における土壌中の塩類集積機構の解明を行います。

倫理等

職務に係る倫理の保持に資するため必要な措置を講ずることにより、職務の執行の公正さに対する国民の疑惑又は不信を招くような行為の防止を図り、もって本学業務に対する国民の信頼を確保することを目的として、規程を定めています。

- ・「鳥取大学役員及び職員倫理規程（鳥取大学規則第42号）」

医学部においては、研究者が人間を直接対象として行う医学研究、教育及び医療行為に対して、ヘルシンキ宣言（世界医師会1964年ヘルシンキ総会採択、2000年エジンバラ総会修正）の趣旨に沿った倫理的配慮を図ることを目的として、規程を定めています。

- ・「鳥取大学医学部倫理審査規則（鳥取大学医学部規則第2号）」

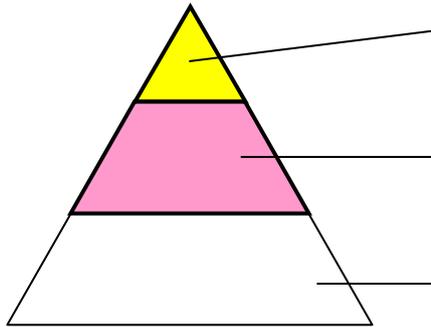
また、研究者の主体的な判断に基づく研究活動は、社会からの信頼と負託を前提としており、研究者に対する学問の自由の下に社会の負託に応える重要な責務を有しているものである。このような基本認識の下に「知と実践の融合」を教育・研究の理念とする鳥取大学は、研究活動の健全な発展を願い「鳥取大学の学術研究に係る行動規範」を定めています。

鳥取大学の学術研究に携わる全ての者は、法令を遵守することはもとより、この行動規範を共通の指針として遵守します。

情報セキュリティ

個人情報や重要な情報の漏洩や改ざん、コンピューターウイルスによるネットワークの混乱等、情報利用の安全性を巡るトラブルの発生を防ぎ、また万一発生した場合の被害の拡大防止と迅速な復旧、再発防止のために、情報セキュリティポリシーを制定しています。

情報セキュリティポリシーは、基本方針・対策基準で構成されています。



基本方針・・・基本的な考え方を示したものです。
「鳥取大学情報セキュリティ基本方針に関する規則（鳥取大学規則第3号）」

対策基準・・・実際に守るべき事項の基準等を示したものです。
「鳥取大学情報セキュリティ対策基準に関する規則（鳥取大学規則第75号）」

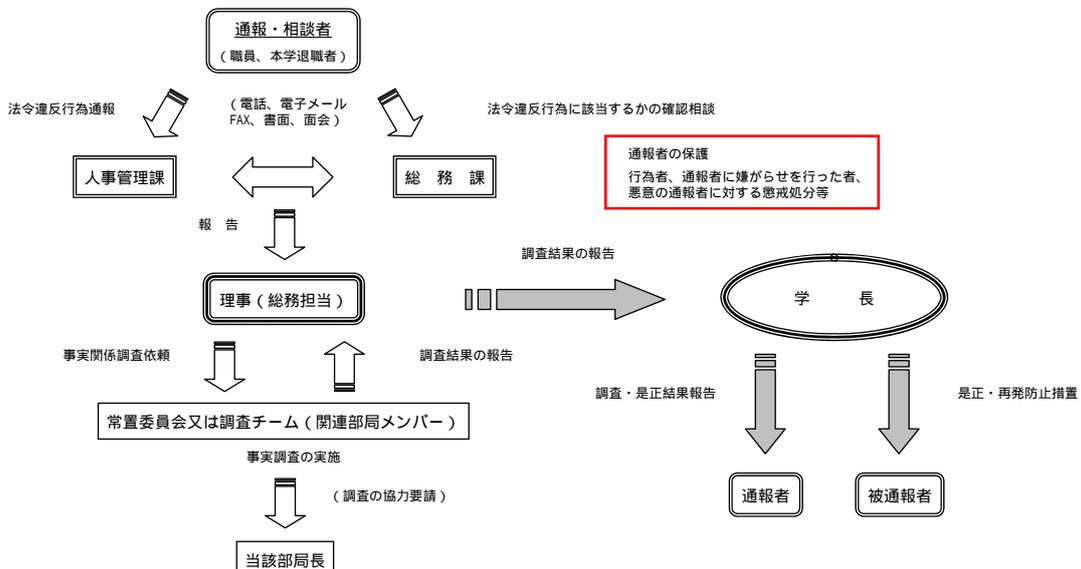
実施手順・・・対策基準に基づき、更に細かく記述したマニュアル的なものです。

内部通報者保護

鳥取大学に対する職員（派遣労働者、出向者等本学が行う業務に従事する者及び本学を退職した者を含む）からの組織的又は個人的な法令違反行為に関する通報又は相談の適正な処理の仕組みを定めることにより、不正行為等の早期発見と是正を図ることを目的として規程を定めています。

また、通報者等に対して不利益な取扱いが行われないように、通報者等の保護についても定めています。

- ・「鳥取大学における内部通報に関する規則（鳥取大学規則第67号）」



教職員・学生教育

平成18年度新採用職員研修において労働安全衛生に関する基本的知識を学ぶことにより、職員の安全管理に対する意識の高揚を図ることを目的に「労働安全衛生研修」を実施しました。

「鳥取大学における労働安全衛生について」と題して

労働災害の実態

大学経営と安全衛生

労働安全衛生法と鳥取大学の適用範囲

労働者の権利と義務

鳥取大学の労働安全衛生活動及び安全衛生上の問題点

について外部講師を招いて実施しました。参加した14名の職員にとって労働安全衛生に関わる意識啓発が大いに期待できる研修となりました。



学内における個人情報保護に対し各自が認識を高め、学内意識の統一を図るため「個人情報保護に関する研修会」を実施しました。

「学校現場における個人情報の被害と実情」と題して

学校における個人情報保護の重要性

個人情報とは

個人情報保護法の概要

等について外部講師を招いて実施しました。参加した約100名の教職員にとって個人情報保護に関する意識啓発が大いに期待できる研修となりました。

何故セクシャル・ハラスメントがいけないのか等について「セクシャル・ハラスメントに関する研修会」を実施しました。

「セクシャル・ハラスメントの起きない職場とするために」と題して

セクシャル・ハラスメントの防止対策の背景・経緯

セクシャル・ハラスメントによる影響

セクシャル・ハラスメント防止対策の目的

セクシャル・ハラスメント防止対策の範囲

職員の責務

監督者に求められる役割

について外部講師を招いて実施しました。参加した教職員・学生にとってセクシャル・ハラスメントについて、理解を深めることができる研修となりました。



近年、病む人の立場に立って人権を尊重することは、医療を提供するものにとって非常に重要なテーマになっています。そこで医学部附属病院では、医学部保健学科の藤井輝明教授を講師に「いまを生きる」と題して、人権研修を行いました。

また、鳥取県内の小学校で行っている取組を紹介しながら、実際に接した子供達が、言葉だけでなく体感・体得することで記憶に残ることの重要性や家庭、地域、そして職場で取り組むことの必要性についても語り、講義室の定員を超える120名の職員は、人権の重要性について気持ちを新たにしました。

農学部において、農学部の全構成員を対象に産業廃棄物の分別の重要性、不燃ごみの分別収集の現状と問題点等について「廃棄物説明会」を実施しました。

産業廃棄物等について

一般廃棄物とくに不燃ごみについて（学生発表）

1) 農学部の分別収集体制について

2) 学祭における分別収集について

等について外部講師を招いて実施しました。参加した教職員・学生にとって廃棄物について、理解を深めることができる説明会となりました。

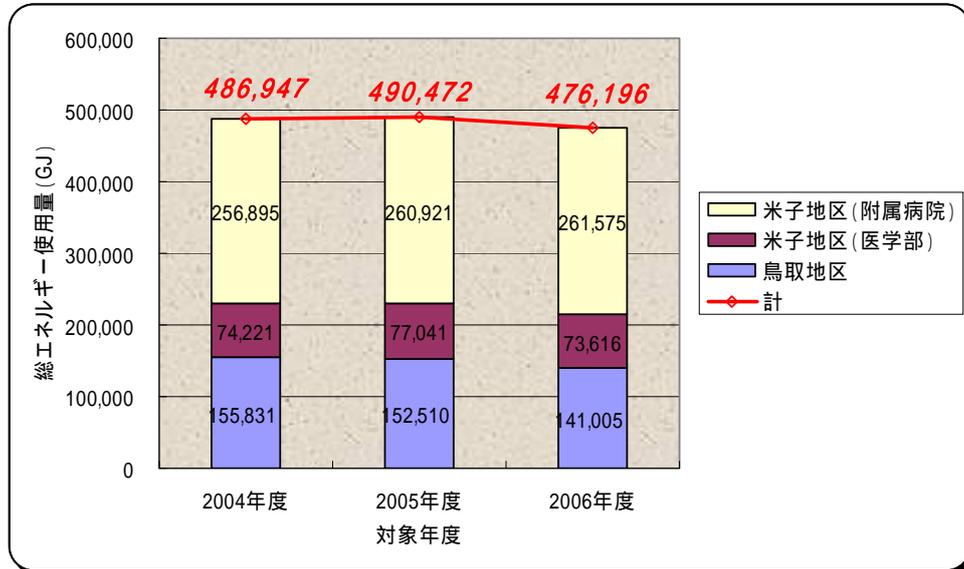


環境負荷の低減

総エネルギー使用量

総エネルギー使用量は、電力使用量・化石燃料使用量により算出しています。

2005年度は2004年度に比べて0.7%増加しましたが、2006年度は冷夏暖冬の影響もあり2005年度に比べて2.9%、2004年度に比べて2.2%減少しました。さらなる省エネルギーの取組を実施し、エネルギー使用量を減少させていきます。



使用エネルギーの内訳

エネルギー種別	単位	使用量
購入電力	(単位：Kwh)	38,274,438
自家発電機	(単位：Kwh)	200,400
太陽光	(単位：Kwh)	1,663
都市ガス	(単位：Nm ³)	627,172
液化石油ガス (LPG)	(単位：Kg)	16,266
灯油	(単位：L)	9,384
重油	(単位：L)	1,760,804
ガソリン	(単位：L)	16,476
軽油	(単位：L)	10,151

新エネルギー利用の状況

中央広場の景観向上及び水質浄化効果も期待できるため、中央広場に噴水を設置しています。噴水の電源として工学部玄関屋上に太陽光発電システムを設置し、環境に優しい電力を利用しています。



設置の状況



太陽光発電システム

環境負荷の低減

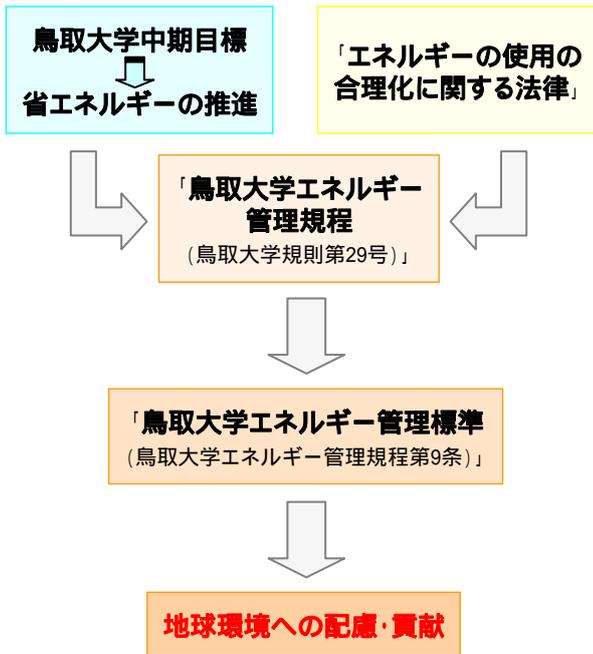
省エネルギーの取組

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づき、エネルギー使用の合理化を図ることを目的として、鳥取大学エネルギー管理規程を定めています。

学生、教職員等に対して、エネルギー使用の合理化を図る一環として、省エネ実施状況報告書の作成、省エネルギー啓発用ポスターの作成等を実施しています。

また、各部局の光熱水量の実績値をホームページにおいて公表し、省エネルギーを推進しています。

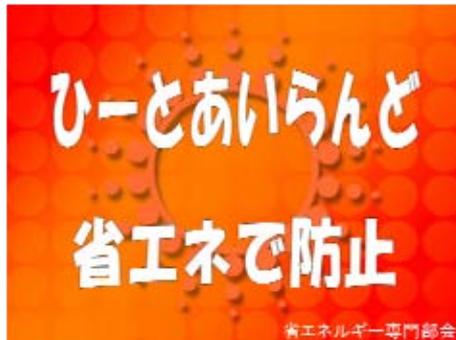
省エネルギー計画の流れ



光熱水量の公表



省エネルギー啓発用ポスター



環境負荷の低減

総物質使用量

総物質使用量は、実験装置・事務用品等がありますが、これらの物品の使用量は、定量的に測定することが難しく、また環境負荷も比較的小さいと考えられることから、コピー用紙の使用量のみを記載しています。

コピー用紙の使用量については、年々増加傾向にあります。より一層の取組を実施し、使用量を減少させていただきます。



コピー用紙の使用量を低減するため、以下の取組を実施しています。

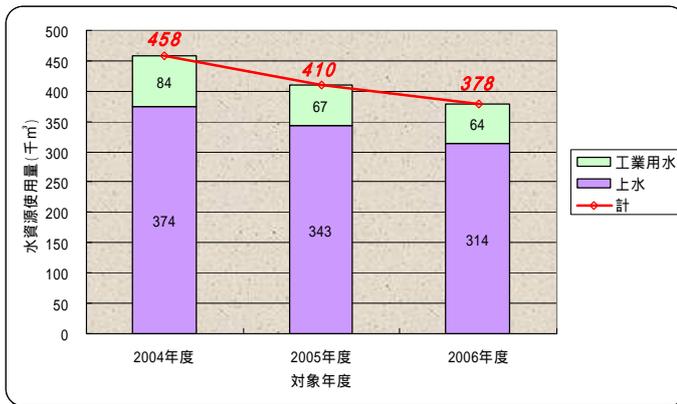
- ・両面印刷の推進
- ・再使用（裏面使用）の推進
- ・文書の電子化、メール使用によるペーパーレスの推進
- ・保存文書等の電子化の推進

水資源使用量

水資源使用量の内訳は、各地区により異なり、上水・工業用水・地下水・雨水を利用しています。

地下水は農場散水用、雨水は雑用水に使用していますが、使用量は、計量していません。

2006年度は2005年度に比べて7.8%の減少となりました。さらなる節水の取組を実施し、水使用量を減少させていただきます。



水使用量を低減するため、以下の取組を実施しています。

- ・節水の学内広報
- ・自動水栓洗面台の設置
- ・女子便所に擬音装置の設置

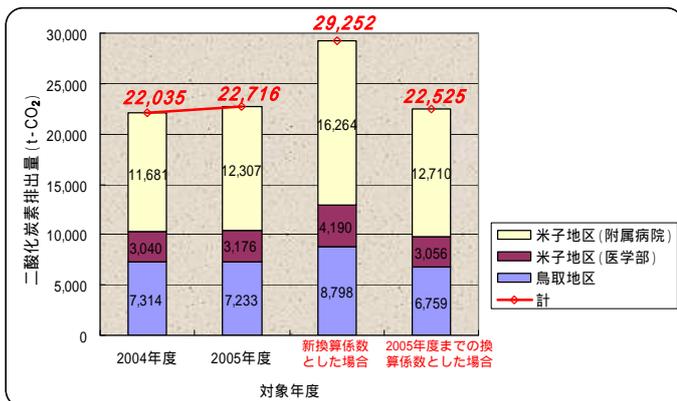
環境報告書2005において誤りがありましたので、お詫びの上、訂正いたします。

誤：2004年度 上水 394 千m³ 工業用水 130 千m³
 2005年度 上水 342 千m³ 工業用水 126 千m³
 正：2004年度 上水 374 千m³ 工業用水 84 千m³
 2005年度 上水 343 千m³ 工業用水 68 千m³

温室効果ガス排出量

温室効果ガス排出量は、二酸化炭素以外の温室効果ガスの排出量が僅少であると考えられるため、二酸化炭素排出量のみ記載しています。

2006年度は「地球温暖化対策の推進に関する法律」が2006年3月に改正されたことによる換算係数変更の影響もあり、2005年度に比べて28.8%増加しています。2005年度までの換算係数とした場合、2006年度は2005年度に比べて0.8%の減少となりました。より一層の省エネルギー、廃棄物低減の取組を実施し、二酸化炭素排出量を減少させていただきます。



二酸化炭素排出量の算出基準は、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」の係数に基づいています。

算出対象は、購入電力・灯油・重油・都市ガス・液化石油ガス(LPG)・ガソリン・軽油・廃棄物(廃プラ・廃油)としています。

化学物質の管理の状況

下記の事項が化学物質の使用、処分方法、排出量等が規制されている項目です。

- ・「ダイオキシン類対策特別措置法」：焼却炉から排出されるダイオキシン
- ・「大気汚染防止法」：ボイラー等から排出されるばい煙
- ・「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」：ポリ塩化ビフェニル（PCB）の保管状況
- ・「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」：特定化学物質の管理
- ・「石綿障害予防規則」：建築物に吹き付けられた石綿（アスベスト）の管理

ダイオキシン *10

「ダイオキシン類対策特別措置法」により、排出ガスについて、測定を行わなければならない施設として、実験動物焼却炉・附属病院小動物焼却炉が該当します。

測定結果

		2004年度	2005年度	2006年度	基準値
排出ガス	実験動物焼却炉 (単位：ng-TEQ/m ³ N)	0.088	0.480	0	< 5
	附属病院小動物焼却炉 (単位：ng-TEQ/m ³ N)	0.00049	0.0000047	0.0000026	< 10
ばいじん等	実験動物焼却炉 (単位：ng-TEQ/g)	0.0005	0	0	< 3
	附属病院小動物焼却炉 (単位：ng-TEQ/g)	0.00000034	0.0000014	0.00055	< 3

環境報告書2005において誤りがありましたので、お詫びの上、訂正いたします。

誤：2005年度 ばいじん等 附属病院小動物焼却炉 0.0000000014 ng-TEQ/g

正：2005年度 ばいじん等 附属病院小動物焼却炉 0.0000014 ng-TEQ/g

ばい煙 *11

「大気汚染防止法」により、ばい煙濃度の測定を行わなければならない施設として、ボイラー15基・吸収式冷温水発生機3基・自家発電機2基が該当します。

測定結果

		2004年度	2005年度	2006年度	基準値
ボイラー	ばいじん濃度 (単位：g/m ³ N)	0.001 ~ 0.096	0.001 ~ 0.069	0.001 ~ 0.064	< 0.3
	全室素酸化物濃度 (単位：cm ³ /m ³ N)	16 ~ 98	17 ~ 89	24 ~ 137	< 180
自家発電機	ばいじん濃度 (単位：g/m ³ N)	0.005 ~ 0.006	0.005 ~ 0.006	0.008	< 0.1
	全室素酸化物濃度 (単位：cm ³ /m ³ N)	516 ~ 550	631 ~ 643	564 ~ 581	< 950

キャンパスの樹木について (三浦団地) - 白松 -

鳥取大学創立30周年記念樹として1979年に、本学名誉教授山根乙彦先生に分譲を依頼し寄贈されたものです。この記念樹は、中国大陸から台湾に移った蒋介石から吉田茂元首相を通じて分譲依頼があり、その求めに応じて接木したものの中の1本です。
(環境マップP56)



きみもなろう「砂漠博士」 - 鳥取砂丘に砂がいっぱいあるのは何故? -

砂の原料となる鉱物が、中国山地から千代川の流れに乗って日本海まで運ばれてきます。砂は沿岸流によって海岸に打ち寄せられ、陸に向かう強い季節風によって内陸に運ばれて砂丘を作ります。



乾燥地研究センターの実験施設
乾燥地学術標本展示システム
模型・映像・パネルによる砂漠化プロセス及び乾燥地農業、緑化技術の紹介、乾燥地研究情報の検索、現地調査などで収集した資料、標本、画像データを公開しています。

ポリ塩化ビフェニル (PCB)*12

「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」により、ポリ塩化ビフェニルの保管及び処分の状況に関し定められています。

保管状況

種類	数量	重量 (単位: kg)
トランス	5 台	660.41
コンデンサ	902 個	1,925.95
安定器	4,816 個	15,684.14
その他	8 個	188.24
合計		18,458.74



PCB保管の状況

特定化学物質

化学物質の管理については、「鳥取大学化学物質管理規則（鳥取大学規則第211号）」を制定し、化学物質の利用者に対し、取得から処分に関する基本事項を定めています。

石綿 (アスベスト)*13

「石綿障害予防規則」により、建築物に吹き付けられた石綿が損傷、劣化等によりその粉じんを発生させ、労働者がその粉じんにはく露するおそれがあるときは、当該吹付け石綿の除去、封じ込め、囲い込み等の措置を講じなければなりません。

鳥取大学においては、2006年度に石綿の含有率（重量比）が1%以上の吹付け石綿を全て除去しましたが、2006年9月1日から「労働安全衛生法施行令」及び「石綿障害予防規則」等が一部改正され、これら法令に基づく規制の対象となる石綿の含有率が1%から0.1%に改められたことから、吹付け材の石綿含有の再調査を実施しました。再調査の結果、石綿の含有率（重量比）が0.1%以上の吹付け材はありませんでした。

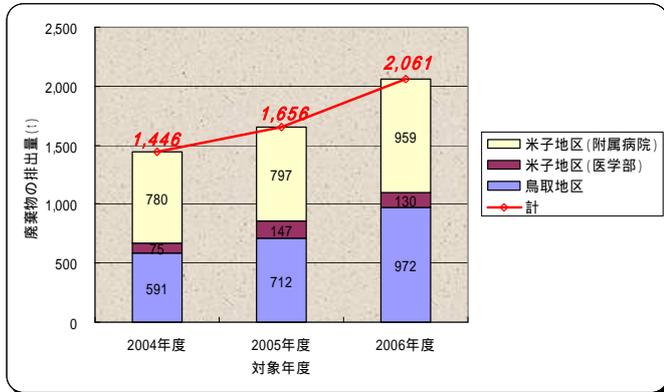


石綿除去の状況

環境負荷の低減

廃棄物排出量

廃棄物の排出量は、2005年度に比べ24.5%の増加となりました。一般廃棄物については、減少していますが、改修工事に伴い木製実験台等の産業廃棄物が大量に発生したこともあり、増加しました。より一層の廃棄物低減の取組を実施し、廃棄物の排出量を減少させていきます。



廃棄物を低減するため、以下の取組を実施しています。

- ・ 廃棄物の分別、計量の取組
- ・ 鳥取大学エミッションコントロール計画の実施
- ・ 環境手帳の配布



廃棄物の分別、計量



鳥取大学エミッションコントロール計画



環境手帳

不用物品等の再利用

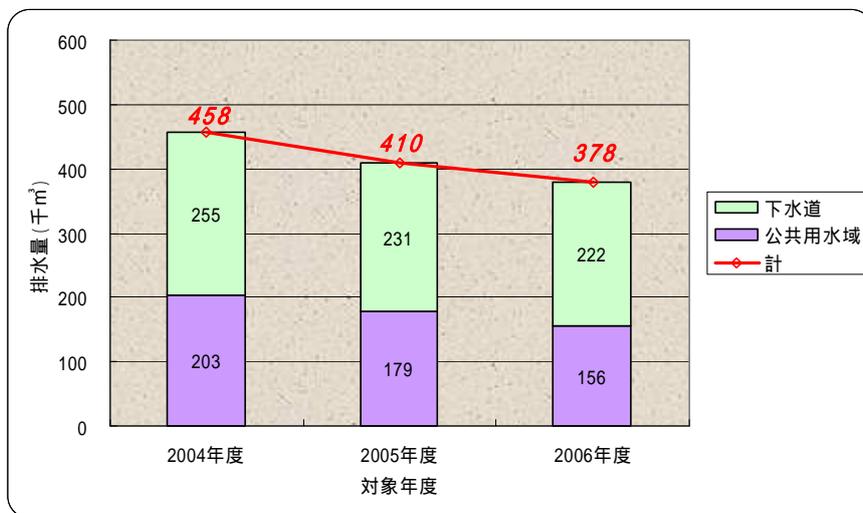
学内の不用物品等の有効活用を図るため、各部局で不用となった物品等を学内ホームページに掲載し、必要とする部局にゆずり、再利用を促進しています。

国北実地番号 (国北実地管理番号)	取得年月日	取得金額	品名	規格	数量	写真	持主部局	譲渡日	備考
-	年月日	-	書架				国北実地管理番号	平成19年2月13日	
-	年月日	-	ページラング	1800W×900D×750×8寸			国北実地管理番号	平成19年2月13日	
鳥大工1-5 239-234	年月日	-	会議机	1800W×900D×750×8寸			国北実地管理番号	平成19年2月13日	
鳥大工1-5	年月日	288,260	70×75×75cm (天板裏面付)	1800W×900D×750×8寸	2台		国北実地管理番号	平成19年2月13日	
鳥大工1-4 239-40 281-877	年月日	-	会議用椅子		200台		国北実地管理番号	平成19年2月13日	
鳥-4-25	2008年12月20日	300,000	会議机 (鳥大工1-4 281-251)	1800W×900D×750×8寸	1台		国北実地	平成19年1月18日	

ホームページ

総排水量

排水先は、各地区により異なり、公共用水域、下水道に排出しています。



環境報告書2005において誤りがありましたので、お詫びの上、訂正いたします。

誤：2004年度 下水道 321 千m³ 2005年度 下水道 289 千m³

正：2004年度 下水道 255 千m³ 2005年度 下水道 231 千m³

排水の管理

排水の管理は、水質調査を6回/年（鳥取地区）、4回/年（米子地区：医学部）8回/年（米子地区：附属病院）窒素、磷は4回/年）実施しています。記載している数値は平均値です。

（単位：mg/L）

	分析項目	2004年度	2005年度	2006年度	基準値
鳥取地区	生物化学的酸素要求量 (BOD)	3.6	3.6	8.2	< 160
	化学的酸素要求量 (COD)	10.9	11.0	12.4	< 160
	窒素含有量	33.4	34.3	16.1	< 120
	磷含有量	4.4	3.7	2.9	< 16
米子地区：医学部	生物化学的酸素要求量 (BOD)	9.0	3.0	12.8	< 600
	窒素含有量	1.6	1.1	4.3	< 240
	磷含有量	0.1	0.1	0.2	< 32
米子地区：附属病院	生物化学的酸素要求量 (BOD)	77.4	55.2	62.9	< 600
	窒素含有量	7.1	9.1	8.4	< 240
	磷含有量	0.5	1.3	1.3	< 32



排水水質管理啓発用のポスター

上記以外の項目についても「鳥取大学排水管理規則（鳥取大学規則第28号）」に定めている基準値（P53）に適合しています。

環境負荷の低減

環境物品等の調達を促すための方針

国立大学法人 鳥取大学

『国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成12年法律第100号）第7条第1項の規定に基づき、平成18年度における環境物品等の調達の推進を促すための方針（以下「調達方針」という。）を定めたので、同条第3項の規定に基づき、公表する。』

（以下略：詳しくは鳥取大学ホームページにおいて掲載しています。）

<http://www.tottori-u.ac.jp/consortium/contents/annai/hojin/hojin.html>)

環境物品等の購入・調達の状況

分野	品目	特定調達物品の調達量				
		2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
紙類	コピー用紙	48,851 kg	82,044 kg	80,582 kg	97,800 kg	119,555 kg
	トイレットペーパー等	50,095 個				
	調達率	91.8%	100%	100%	100%	100%
文具類	事務用封筒等	577,441 個	117,864 個	374,773 個	187,898 個	106,337 個
	調達率	99.6%	99.6%	100%	100%	100%
機器類	いす等	618 個	476 個	446 個	1,527 個	1,615 個
	調達率	84.9%	93.2%	100%	100%	100%
OA機器	電池等	705 台	2,496 台	740 台	1,445 台	19,975 個
	調達率	100%	95.8%	100%	100%	100%
家電製品	電気冷蔵庫等	37 台	35 台	13 台	58 台	53 台
	調達率	90.2%	89.7%	100%	100%	100%
エアコンディショナー等	エアコンディショナー等	32 台	23 台	26 台	88 台	93 台
	調達率	100%	100%	92.9%	100%	100%
温水器等	電気給湯器等	-	-	-	15 台	3 台
	調達率	-	-	-	100%	100%
照明	蛍光管	2,965 本	2,735 本	2,370 本	8,244 本	5,258 本
	調達率	100%	100%	100%	100%	100%
自動車等	一般公用車・タイヤ	3 台	6 台	-	-	1 台・12 本
	調達率	100%	100%	-	-	100%
消火器		-	-	-	10 本	63 本
	調達率	-	-	-	100%	100%
インテリア・寝装寝具	カーテン等	28 枚	29 枚	-	-	-
	調達率	100%	100%	-	-	-
制服・作業服 作業手袋	作業服等	230 双	-	-	-	52 着
	調達率	36.5%	-	-	-	100%
繊維製品	ブルーシート等	-	-	-	-	52 枚
	調達率	-	-	-	-	100%
役務	印刷等	127 件	267 件	286 件	421 件	682 件
	調達率	23.6%	86.7%	100%	100%	100%

低公害車・低燃費車の台数

公用車の台数	公用車のうち、低公害車・低燃費車の台数
26 台	16 台

目標と取組実績について

2006年度の調達目標は100%とし、調達総量に対する基準を満足する物品等の調達量の割合により目標設定を行う品目については、全て100%の調達実績となりました。

2002年度においては、調達率が100%でないものがほとんどでしたが、調達目標を達成するために、全学で取組を進めた結果、2004年度にエアコンディショナーを除く全製品について調達率を100%とし、2005年度には全製品について100%となりました。

規制の遵守状況

環境に関する法規制等を遵守していることの確認方法

項目	関連する法規制	鳥取大学規則等	確認方法
環境報告書	環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律	鳥取大学施設・環境委員会に設置する専門委員会に関する細則	施設・環境委員会において、自己評価を実施
環境汚染防止対策	環境基本法、水質汚濁防止法、下水道法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律	鳥取大学施設・環境委員会規則（鳥取大学規則第77号）	施設・環境委員会において、審議を実施
エネルギー管理	エネルギーの使用の合理化に関する法律	鳥取大学エネルギー管理規程（鳥取大学規則第29号）	エネルギー管理規程のもと、エネルギー管理標準を定めています
排水管理	環境基本法、水質汚濁防止法、下水道法	鳥取大学排水管理規則（鳥取大学規則第28号）	排水基準への適合を確認するため、自主検査として排水の水質調査を実施
化学物質管理	毒物及び劇物取締法、労働安全衛生法	鳥取大学化学物質管理規則（鳥取大学規則第211号）	規則において、登録者・管理単位・管理責任者・保管及び使用を定めています
放射性同位元素等管理	放射線同位元素等による放射線障害の防止に関する法律	鳥取大学放射線安全委員会規則（鳥取大学規則第7号）	規則において、取扱い及び管理等に関する重要事項を定めています

環境規制に関する自己基準

鳥取大学から公共用水域に排出する水に対し、本学の排出者責任を明確にして水質の汚濁防止を図り、もって住民の健康を保護するとともに生活環境を保全し、及び地域社会への情報公開についての基本的事項を定めています。（「鳥取大学排水管理規則（鳥取大学規則第28号）」）

法規制等で定める排水基準への適合を確認するため、排水の水質調査を行っています。水質調査の分析項目、基準値は、別表のとおりです。別表の基準値を超える値を出した場合は、速やかに改善を図るとともに、理事（環境担当）に報告することを定めています。

別表

分析項目	基準値	分析項目	基準値
水素イオン濃度	5.8以上8.6以下	六価クロム化合物	0.5 mg/L
生物学的酸素要求量(BOD)	160 mg/L、日間平均30 mg/L	砒素及びその化合物	0.1 mg/L
化学的酸素要求量(COD)	160 mg/L、日間平均30 mg/L	水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物	0.005 mg/L
浮遊物質(SS)	200 mg/L、日間平均150 mg/L	PCB	0.003 mg/L
n-ヘキサン抽出物質含有量	鉱物油 5 mg/L 動植物油 30 mg/L	トリクロロエチレン	0.3 mg/L
フェノール類含有量	5 mg/L	テトラクロロエチレン	0.1 mg/L
銅含有量	3 mg/L	ジクロロメタン	0.2 mg/L
亜鉛含有量	2 mg/L	四塩化炭素	0.02 mg/L
溶融性鉄含有量	10 mg/L	1,2-ジクロロエタン	0.04 mg/L
溶融性マンガン含有量	10 mg/L	1,1-ジクロロエチレン	0.2 mg/L
クロム含有量	2 mg/L	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.4 mg/L
フッ素含有量	8 mg/L	1,1,1-トリクロロエタン	3 mg/L
大腸菌群数	日間平均3,000 個/cm ³	1,1,2-トリクロロエタン	0.06 mg/L
窒素含有量	120 mg/L、日間平均25 mg/L	1,3-ジクロロプロペン	0.02 mg/L
リン含有量	16 mg/L、日間平均4 mg/L	チウラム	0.06 mg/L
カドミウム及びその化合物	0.1 mg/L	シマジン	0.03 mg/L
シアン化合物	1 mg/L	チオベンカルブ	0.2 mg/L
有機リン化合物	1 mg/L	ベンゼン	0.1 mg/L
鉛及びその化合物	0.1 mg/L	セレン及びその化合物	0.1 mg/L

法規制違反の状況等

鳥取大学においては、法規制等の違反、環境に関する違反表示・誤表示・罰金・料料等・苦情、及び環境関連の訴訟はありません。

鳥取大学においては、環境会計の導入は行っておりません。掲載データについては、把握しているデータです。

環境保全コスト

主な取組の内容	費用額(千円)	備考
空調システム(ガスヒートポンプ方式)の設置 *14	148,912	地球環境保全コスト
擬音装置の設置	7,481	資源循環コスト
自動水栓洗面台の設置	6,293	資源循環コスト
高効率型照明器具の設置及び外灯の調光制御方式 *15	5,157	資源循環コスト
自動消灯センサーの設置	4,677	資源循環コスト
損失低減変電設備(アモルファス型変圧器)の設置 *16	1,872	資源循環コスト
タスクアンビエント照明方式 *17	1,244	資源循環コスト
空調機・換気扇消し忘れ防止センサーの設置	1,165	資源循環コスト

環境保全効果

環境パフォーマンス指標	2005年度	2006年度	前年度比
エネルギー使用量 (単位: GJ)	490,472	476,196	- 14,276
水資源使用量 (単位: m ³)	410,155	377,549	- 32,606
温室効果ガス排出量 (単位: t-CO ₂)	22,716	29,252	+6,536
廃棄物等総排出量 (単位: t)	1,656	2,061	+ 405

環境保全対策に伴う経済効果

環境保全対策に伴う経済効果		金額(千円)
効果の内容		
省エネルギーによるエネルギー費の節減		6,010

空調機・換気扇消し忘れ防止センサー

空調機・換気扇について、消し忘れを防ぐためにセンサーエリアから人がいなくなると、10分で運転を自動停止します。



センサーエリアから人がいなくなると10分で、運転を自動停止

キャンパスの樹木について (三浦団地) - 稲葉の松 -

鳥取大学は、特色の鮮明な、まねのできない大学でありたい、千年の緑、不老の大樹稲葉の松を正門高くという考えから、統合移転の際に、旧教育学部地内の図書館裏から移植されました。稲葉山の松は、因幡の国守在原行平の歌で知られています。

立別れ稲葉の山の峰に生ふる
松としきかば今かへり来む(百人一首)
(環境マップP56)



きみもなろう「砂漠博士」 - 鳥取砂丘に砂がいっぱいあるのは何故? -

砂の原料となる鉱物が、中国山地から千代川の流に乗って日本海まで運ばれてきます。砂は沿岸流によって海岸に打ち寄せられ、陸に向かう強い季節風によって内陸に運ばれて砂丘を作ります。



乾燥地研究センターの実験施設
乾燥地学術標本展示システム
模型・映像・パネルによる砂漠化プロセス及び乾燥地農業、緑化技術の紹介、乾燥地研究情報の検索、現地調査などで収集した資料、標本、画像データを公開しています。

環境報告書の情報開示

環境報告書については、本学のホームページに掲載するとともに、インフォメーションセンター等において配布しています。



ホームページ



インフォメーションセンター

環境報告書配布場所

- ・鳥取大学東京リエゾンオフィス
- ・鳥取大学鳥取サテライトオフィス
- ・鳥取大学前駅鳥取大学広報コーナー
- ・鳥取県立図書館
- ・鳥取市駅南庁舎
- ・倉吉市立図書館
- ・米子市役所
- ・境港市役所
- ・鳥取大学大阪オフィス
- ・鳥取大学地域共同研究センター広報コーナー
- ・鳥取県名古屋事務所
- ・鳥取市立図書館
- ・鳥取県中部総合事務所
- ・倉吉未来中心
- ・米子コンベンションセンター
- ・境港市立図書館
- ・鳥取県庁県民室
- ・鳥取市広報コーナー
- ・倉吉市役所
- ・倉吉商工会議所
- ・米子市立図書館
- ・鳥取県西部総合事務所

環境報告書2005

環境報告書2005については、上記配布場所において配布するとともに、様々な機会において環境報告書の紹介をしています。

- ・大学等環境安全協議会総会・研修会においてポスター展示
- ・鳥取県教育委員会教育環境課との意見交換会において紹介
- ・鳥取県内4市と鳥取大学との連絡協議会において紹介 等



ポスター展示



意見交換会

環境マップ（三浦団地）

The map shows the layout of the Murauchi area, including the following landmarks and features:

- かなえ 巖の松 (詳細P20)**: A large, well-manicured pine tree in front of a building.
- 岩倉のヒマラヤスギ (詳細P26)**: A tall, slender pine tree in a courtyard.
- 五本松 (詳細P28)**: Five pine trees in a row.
- 同窓のシイ・啓成のクス (詳細P31)**: A large, dense tree in front of a building.
- 尚徳の森**: A wooded area with cherry blossoms.
- 並木道**: A tree-lined path.
- 芝生広場**: A grassy field.
- 屋上緑化**: A green roof area.
- 三浦古墳への散策道**: A path leading to an ancient burial mound.
- 桜並木**: A row of cherry blossom trees.
- 太陽光発電システム**: A solar panel system on a building.
- 見越の松 (詳細P42)**: A pine tree with a thick, gnarled trunk.
- 希望の月桂樹 (詳細P40)**: A large, leafy tree in front of a building.
- 白松 (詳細P48)**: A young pine tree in a field.
- 稲葉の松 (詳細P54)**: A large pine tree in a courtyard.

Other map features include: 附属中学校, 附属小学校, 農学部, 附属図書館, 地域学部, 工学部, 噴水前広場, 高野三浦・高野1号, JR山陽本線, 高野市街, 高野駅前, 米子方面.

環境マップ（米子団地）



附属病院前庭



飛鳥の森



湊山公園



潮止の松



医学部前庭



学生会館テラス



菩提樹
(詳細P28)



ヒヨクラテスの木
(詳細P40)

自己評価

環境報告書が記載事項等に従って作成されているかどうかについての自己評価を、環境省が作成した「環境報告書の信頼性を高めるための自己評価の手引き【試行版】」に準じて実施しました。

評価対象項目について自己評価手続を実施した結果、下記を除き問題となる事項はありませんでした。

記

「労働安全衛生」(P41)の2005年度労働災害件数に誤りがありました。

「水資源使用量」(P47)の2004・2005年度データの数値に誤りがありました。

「ダイオキシン」(P48)の2005年度データの附属病院小動物焼却炉におけるばいじん等の測定結果に誤りがありました。

「総排水量」(P51)の2004・2005年度データの数値に誤りがありました。

過去のデータについて数値の誤りがあり、今後データの正確性についてチェック機能強化の必要があります。環境報告書の発行も今回で2回目となり、環境マネジメントシステムに関する取組、環境に関する研究・教育の記載内容の充実、医学部附属病院の取組等、前回に比べて記載内容について充実しつつあります。また、環境配慮への取組も着実に進んでいます。

今後、更なる環境配慮への取組を進めるために、全学が一丸となって取り組むことが必要です。

2007年6月 鳥取大学環境委員会

編集後記



理事(環境担当)
本名 俊正

鳥取大学としての環境への取組を広く地域社会に情報公開するために、「環境報告書2006」をとりまとめました。平成17年から施行された「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律(環境配慮促進法)」に基づき、「環境報告書」のとりまとめとしては2年目(2回目)になります。

このように大学内の環境に関する様々なデータを取りまとめてみますと、大学本来の目的である教育・研究・社会貢献をすすめる中で、安全な環境と環境への負荷を軽減するためのしくみを、教職員・学生が一体となって、社会に展開発展させ、大学としての社会的責任を果たしていくことが極めて大切であることが、実感としてよくわかります。また、鳥取大学と地域社会との結びつきについてもよく理解できます。

大学の環境改善に対する取組は広範囲にわたっており、講義、演習、実験、研究等々に限らず、学内外のクリーン活動等に自覚的に取り組む学生づくりの実習教育も重要ですし、また省エネルギーを意識した施設改善、キャンパス整備や地域との関連等においても注目すべき取組をすすめています。これらの取組が、環境憲章に照らし合わせ、基本方針をどの程度実現しているかについて、多面的な解析とともに評価・検証をしながら進めることが重要です。

環境改善の取組をさらに積極的にすすめるために、附属学校園から大学までの全構成員、園児、児童、生徒、学生、教職員そして事業所の方々ふくめて、一人一人が自覚を持つとともに、全員が協力して実行してすすめることの重要性を再確認して、積極的な体制作りが極めて大切と思います。特に、大学構成員の大半を占める学生が、このような取組の企画、実行、評価のあらゆる面で自主的に参加・実行することが期待されます。

キャンパスをきれいにするためには、ごみを捨てないことですが、そのごみも資源に変えることができます。いまこそ、一人一人がクリーンキャンパス活動を自主的に取り組みたいものです。

喫煙につきましては、医学部附属病院(米子地区)で、建物内はもちろんのこと、敷地内全面禁煙が始まりました。新しい取組として高く評価できると思います。また、各部局においても建物内禁煙の取組が進んでいますが、十分とはいえない状況もあります。禁煙については、環境改善とともに健康管理面からも、より一層の積極的な取組が期待されています。

新聞でもテレビでも、環境問題の報道されない日はありません。環境教育を進める高等教育機関として、多様な環境問題に的確に対応し、環境に配慮した持続可能な社会を構築していくために、自主的な環境配慮の意識改革と積極的な取組を着実に進めていかなくてはなりません。

*1	マテリアルバランス	事業活動に投入された資源・エネルギー量（インプット）と、廃棄物・温室効果ガス・排水等の環境負荷発生量（アウトプット）を、分かりやすくまとめたものです。
*2	グリーン調達	製品・資材・サービス等を調達する際に、その必要性を十分に考慮し、購入が必要な場合には、価格・品質等だけでなく、できる限り環境への負荷が少ないものを優先的に購入することです。
*3	公共用水域	水質汚濁防止法の定義では、「河川・湖沼・港湾・沿岸海域その他公共の用に供される水域」とされています。
*4	環境マネジメントシステム	環境保全に関する取組を実施するにあたり、計画（Plan）・実施（Do）・評価（Check）・見直し（Act）のサイクルにより、継続的改善を図るためのシステムです。
*5	21世紀COEプログラム	文部科学省が、世界最高水準の研究拠点づくりを目的に行っている事業です。
*6	特色ある大学教育支援プログラム	文部科学省が、大学教育の改善に資する種々の取組を広く社会に情報提供するなど、今後の高等教育の改善に活用するため、実施している事業です。
*7	大学国際戦略本部強化事業	文部科学省が、世界的研究・教育拠点を目指して、大学の国際戦略の下、国際活動を組織的に推進するための事業です。
*8	戦略的国際連携支援事業	文部科学省が、国際的通用性・共通性の向上と国際競争力の強化を図るため、海外の大学等との積極的な連携を図り、高等教育の国際化を促進させることを目的としている事業です。
*9	環境コミュニケーション	持続可能な社会の構築に向けて、環境負荷や環境保全活動等に関する情報を一方的に提供するだけでなく、利害関係者の意見を聞き、討議することにより、互いの理解と納得を深めていくことです。
*10	ダイオキシン	ダイオキシン類は、数多くの物質からなる混合物ですが、その有害性は、混合物を構成する同族体によって異なりますが、「発がん性」「肝毒性」「免疫毒性」及び「生殖毒性」があるといわれています。
*11	ばい煙	物の燃焼等に伴い発生する硫黄酸化物、ばいじん、有害物質をいいます。大気汚染防止法の対象となるばい煙発生施設はボイラー等の規模や燃焼物の内容により測定項目は異なります。
*12	ポリ塩化ビフェニル（PCB）	不燃性で電気絶縁性にすぐれ、化学的に安定であるなどの特性を持つことから、熱媒体やトランス及びコンデンサの絶縁油など幅広い用途に使用されてきました。1972年に製造が中止されるとともに適正保管が義務づけられ、1974年以降は製造・輸入・使用が原則禁止となっています。
*13	石綿（アスベスト）	天然に産する繊維状けい酸塩鉱物で、その繊維がきわめて細いため所要の措置を行わないと吸入してしまうおそれがあります。石綿は、そこにあること自体が直ちに問題なのではなく、飛び散ること、吸い込むことが問題となるため、「石綿障害予防規則」以外にも、「労働安全衛生法」、「大気汚染防止法」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等で予防や飛散防止等が図られています。
*14	空調システム（ガスヒートポンプ方式）	ガスによる空調システム。燃料として使用する天然ガスは他の化石燃料に比べ、CO ₂ の排出量を削減できます。
*15	外灯の調光制御方式	外灯をA M0:00～6:00の時間において照度を半分にするにより、電力消費量を削減できます。
*16	損失低減変電設備（アモルファス型変圧器）	従来の変圧器より電力損失が少なく、電力消費量を削減できます。
*17	タスクアンビエント照明方式	全般照明を抑え、作業空間に局所照明を設ける方式です。

環境報告書ガイドライン準拠項目

分野	項目	ページ
1) 基本的項目	1. 経営責任者の緒言(総括及び誓約を含む)	2
	2. 報告に当たっての基本的要件(対象組織・期間・分野)	3・60
	3. 事業の概況	5~7
2) 事業活動における環境配慮の方針・目標・実績等の総括	4. 事業活動における環境配慮の方針	1
	5. 事業活動における環境配慮の取組に関する目標、計画及び実績等の総括	4・12・45~52・60
	6. 事業活動のマテリアルバランス	8
	7. 環境会計情報の総括	54
3) 環境マネジメントの状況	8. 環境マネジメントシステムの状況	9~11・48・53
	9. 環境に配慮したサプライチェーンマネジメント等の状況	39・40
	10. 環境に配慮した新技術等の研究開発の状況	13~18
	11. 環境情報開示、環境コミュニケーションの状況	27~29・31・55
	12. 環境に関する規制の遵守状況	48・49・53
	13. 環境に関する社会貢献活動の状況	13~18・25~30・35・41
4) 事業活動に伴う環境負荷及びその低減に向けた取組の状況	14. 総エネルギー投入量及びその低減対策	45・46
	15. 総物質投入量及びその低減対策	47
	16. 水資源投入量及びその低減対策	47
	17. 温室効果ガス等の大気への排出量及びその低減対策	47
	18. 化学物質の排出量・移動量及びその管理の状況	48・49
	19. 総製品生産量又は総商品販売量	-
	20. 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	50
	21. 総排水量及びその低減対策	51・53
	22. 輸送に係る環境負荷の状況及びその低減対策	-
	23. グリーン購入の状況及びその推進方策	52
	24. 製品・サービスのライフサイクルでの環境負荷の状況及びその低減対策	-
5) 社会的取組の状況	25. 社会的取組の状況	41~44

・ 報告対象期間

2006年4月~2007年3月

・ 発行日

2007年7月

・ 次回発行予定

2008年7月

・ 連絡先

鳥取大学 施設環境部 企画環境課
〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101
TEL: 0857-31-5039 FAX: 0857-31-5860
E-mail: h-yakabe@zim.tottori-u.ac.jp

・ ホームページのURL

報告書内容はホームページでもご覧いただけます。
<http://www.sisetu.zim.tottori-u.ac.jp/kankyoku/0.mainpage.html>

**施設・環境委員会 (~2007.3)
環境委員会 (2007.4 ~)**

委員長	理事(施設環境担当)	高木 義紀 (~2007.3)
	理事(環境担当)	本名 俊正 (2007.4 ~)
	地域学部副学部長	中野 恵文 (~2007.3)
		安藤 由和 (2007.4 ~)
	医学部副学部長	井上 貴央 (~2007.3)
		長谷川 純一 (2007.4 ~)
	工学部副学部長	福井 茂壽 (~2007.3)
		丹羽 幹 (2007.4 ~)
	農学部長	本名 俊正 (~2007.3)
		中島 廣光 (2007.4 ~)
	医学部附属病院長	石部 裕一 (~2007.3)
		豊島 良太 (2007.4 ~)
	施設環境部長	中尾 秀夫

環境マネジメント専門委員会

委員長	農学部長	本名 俊正 (~2007.3)
	工学部教授	細井 由彦 (2007.4 ~)
	地域学部教授	廣重 佳治
	医学部准教授	田中 俊行
	工学部准教授	増田 貴則
	農学部准教授	大津 亨
	附属学校部長	矢部 敏昭
	医学部附属病院准教授	田邊 芳雄
	乾燥地研究センター准教授	木村 玲二
	大学教育総合センター准教授	武田 修志
	施設環境部企画環境課長	前川 利雄
	医学部施設環境課長	小草 建三



「鳥取大学 環境報告書2006」は古紙配合率100%再生紙、環境に優しい大豆油インキを使用しています。



鳥取大学

Tottori University

〒680-8550 鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地

Koyama-cho Minami 4-101 Tottori-city Tottori Pref,680-8550

<http://www.tottori-u.ac.jp/index.html>